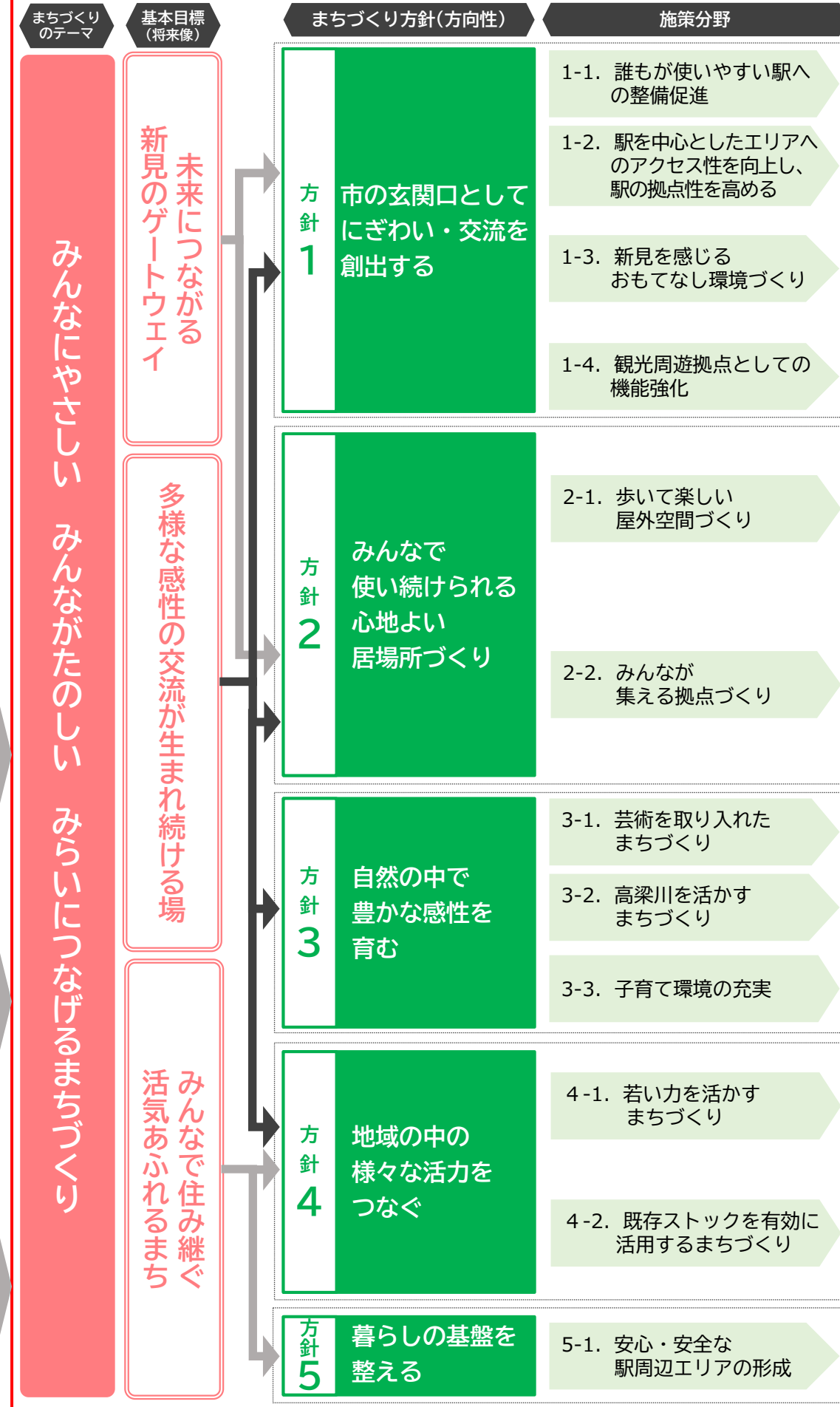
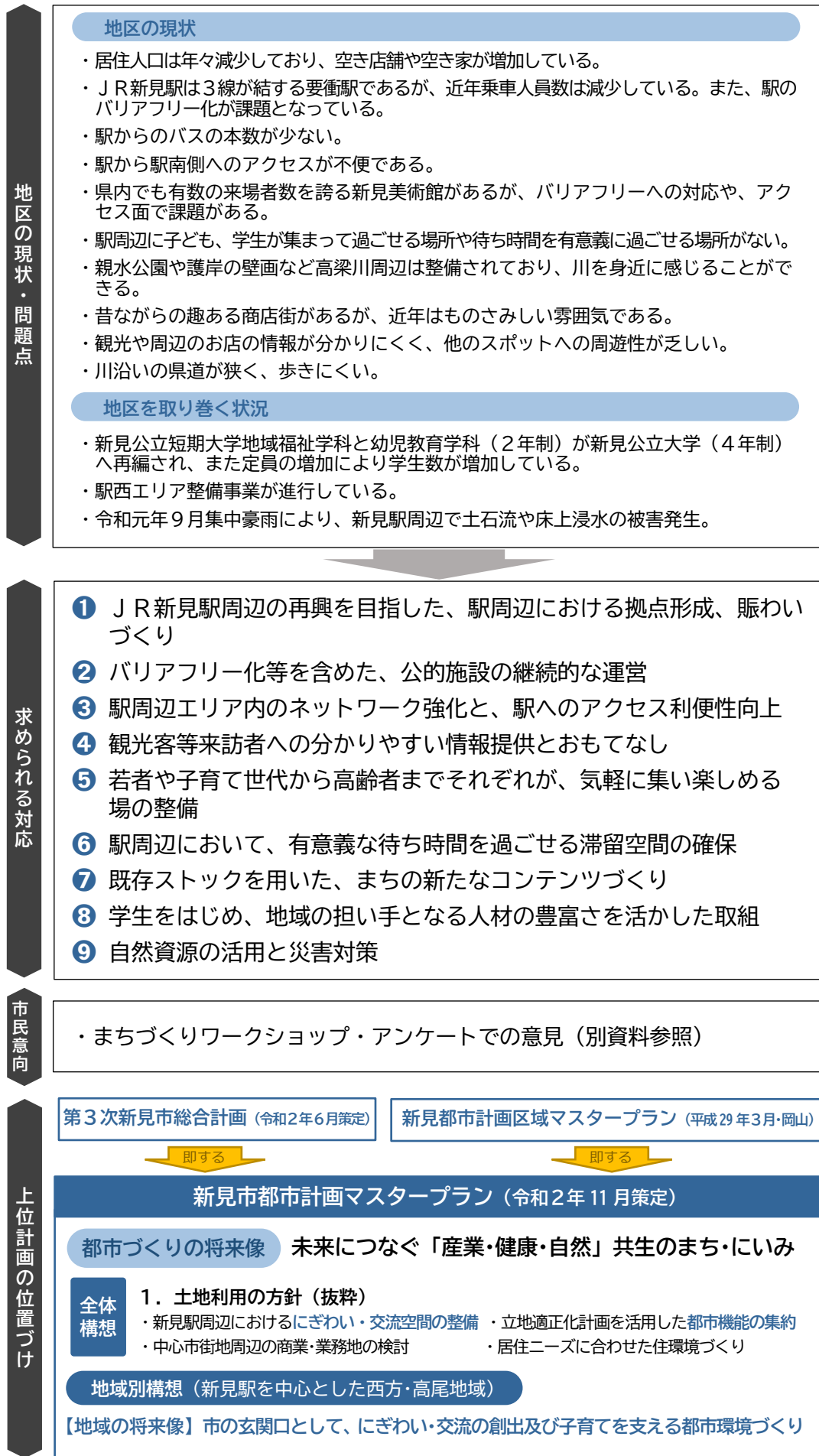


新見駅周辺まちづくり基本方針（案）

■：ワークショップで出された意見
■：一般アンケート設問 6, 7*の上位 5 項目
■：高校生・大学生アンケート設問 6, 7*の上位 5 項目
■：JR 新見駅利用者アンケート設問 6, 7*の上位 5 項目
■：新見美術館利用者アンケート設問 6, 7*の上位 5 項目

※設問 6「新見駅周辺において、どんな空間や施設があったら良いと思いますか。」 設問 7「ワークショップで出された学生や民間事業者が参画する取組アイデアについて、特に魅力的だと思うものはどれですか。」

●：既存計画に位置づけられた施策や既に進行中の事業
○：ワーキンググループ等が出た意見



まちづくり基本方針イメージ（案）

まちづくり基本方針の 対象エリア

【駅周辺全体】

方針
4

地域の中の
様々な
活力をつなぐ

- 4-1. 若い力を活かす
まちづくり
- 4-2. 既存ストックを有効に
活用するまちづくり

方針
5

暮らしの
基盤を
整える

- 5-1. 安心・安全な
駅周辺エリアの形成

方針
2

みんなで
使い続けられる
心地よい
居場所づくり

- 2-1. 歩いて楽しい
屋外空間づくり
- 2-2. みんなが
集える拠点づくり

方針
1

市の玄関口として
にぎわい・交流を
創出する

- 1-1. 誰もが使いやすい
駅への整備促進
- 1-2. 駅を中心としたエリ
アへのアクセス性を
向上し、駅の拠点性を
高める
- 1-3. 新見を感じる
おもてなし環境づくり
- 1-4. 観光周遊拠点としての
機能強化

方針
3

自然の中で
豊かな感性を
育む

- 3-1. 芸術を取り入れた
まちづくり
- 3-2. 高梁川を活かす
まちづくり
- 3-3. 子育て環境の充実

新見駅周辺まちづくり基本方針（案）

～みんなにやさしい みんながたのしい みらいにつなげるまちづくり～

新見駅周辺まちづくり検討委員会

目 次

1	はじめに	1
	(1) 基本方針策定にあたっての背景	
	(2) 基本方針の位置づけ	
	(3) 基本方針の対象地域	
2	新見駅周辺の概要	3
	(1) 新見駅周辺の人口動態（人口/世帯数/将来推計）	
	(2) 施設の立地状況（主要施設の立地状況/土地利用状況/主要施設の現状/都市計画の状況）	
	(3) 市内観光の状況（観光入込客数の推移）	
	(4) 公共交通の状況（鉄道路線/バス路線）	
	(5) 道路交通ネットワークの状況（主要道路の状況）	
	(6) 地区を取り巻く状況（地区周辺の状況/全国的なまちづくりの潮流）	
3	上位・関連計画の整理	19
	(1) 第3次新見市総合計画	
	(2) 新見市都市計画マスタープラン	
	(3) 新見市国土強靱化地域計画	
	(4) 新見市立地適正化計画	
4	まちづくりワークショップの結果（概要）	21
	(1) まちづくりワークショップの開催概要	
	(2) まちづくりワークショップの結果（概要）	
5	市民・学生等アンケート調査結果（概要）	26
	(1) アンケート調査の実施概要	
	(2) アンケート調査結果（概要）	
6	新見駅周辺の課題整理（求められる対応）	31
7	まちづくりの基本方針	33
	(1) まちづくりテーマ・基本目標（将来像）	
	(2) まちづくり方針（方向性）	

■ 今後の流れ（新見駅周辺まちづくり基本構想策定予定）	41
-----------------------------	---------

[資料編]

1. 新見駅周辺まちづくりに関するアンケート調査結果

1 はじめに

(1) 基本方針策定にあたっての背景

新見駅周辺エリアは山陽と山陰を結ぶ要衝であるＪＲ新見駅を中心に、住宅や商店が集積し、本市の中心市街地として発展してきました。しかし、近年の少子高齢化や人口減少に伴い、空き家や空き地等の増加・居住人口の減少・駅利用者の減少・商業構造の変化等により、地域の著しい活力低下が課題となっています。

一方、本市においては新見公立大学の学生数が増加し、まちづくりの担い手として学生の参画が期待されています。市内の学生向けの住居不足、そして駅周辺の活力低下という課題を解決すべく、新見駅西エリア整備事業により学生向け賃貸住居とフリースペースを備えた学生居住棟を整備中です。

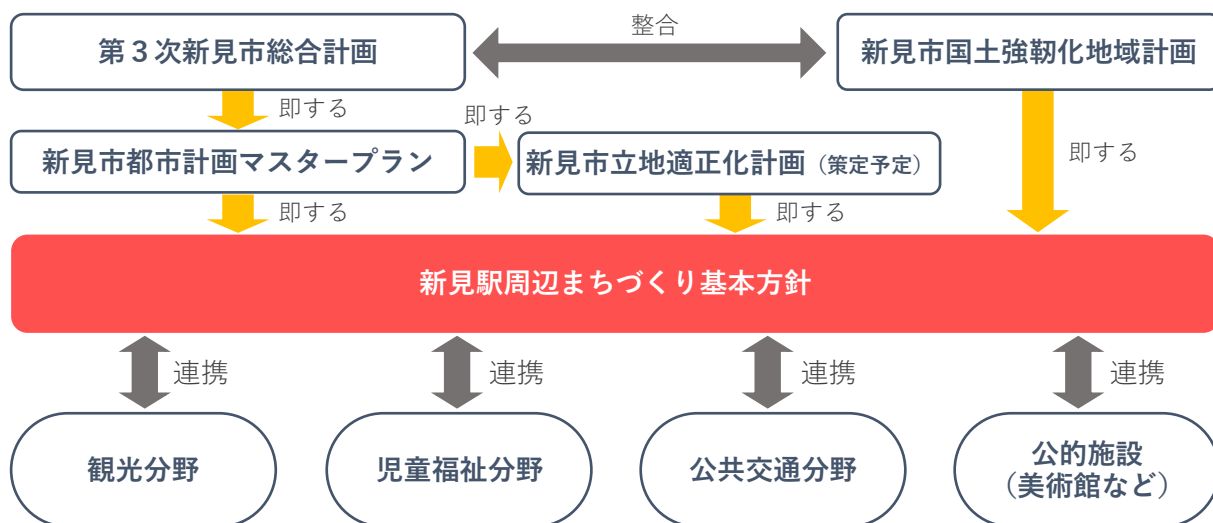
このような背景を踏まえ、本市において将来にわたる持続可能なまちづくりを進めるため、市の玄関口である新見駅周辺を核とした、都市機能の充実やにぎわいの創出が求められています。本方針では、新見駅周辺のまちづくりの目標や方向性などの基本的な考え方を整理しており、多様な主体が連携して様々な取組を実行し、まちづくりを推進していきます。

(2) 基本方針の位置づけ

「第３次新見市総合計画」や「新見市都市計画マスタープラン」「新見市立地適正化計画（策定予定）」、「新見市国土強靱化地域計画」の内容に即するものとして、本方針を作成しています。

また、関連する各分野と連携しながら、具体的な取組を推進していきます。

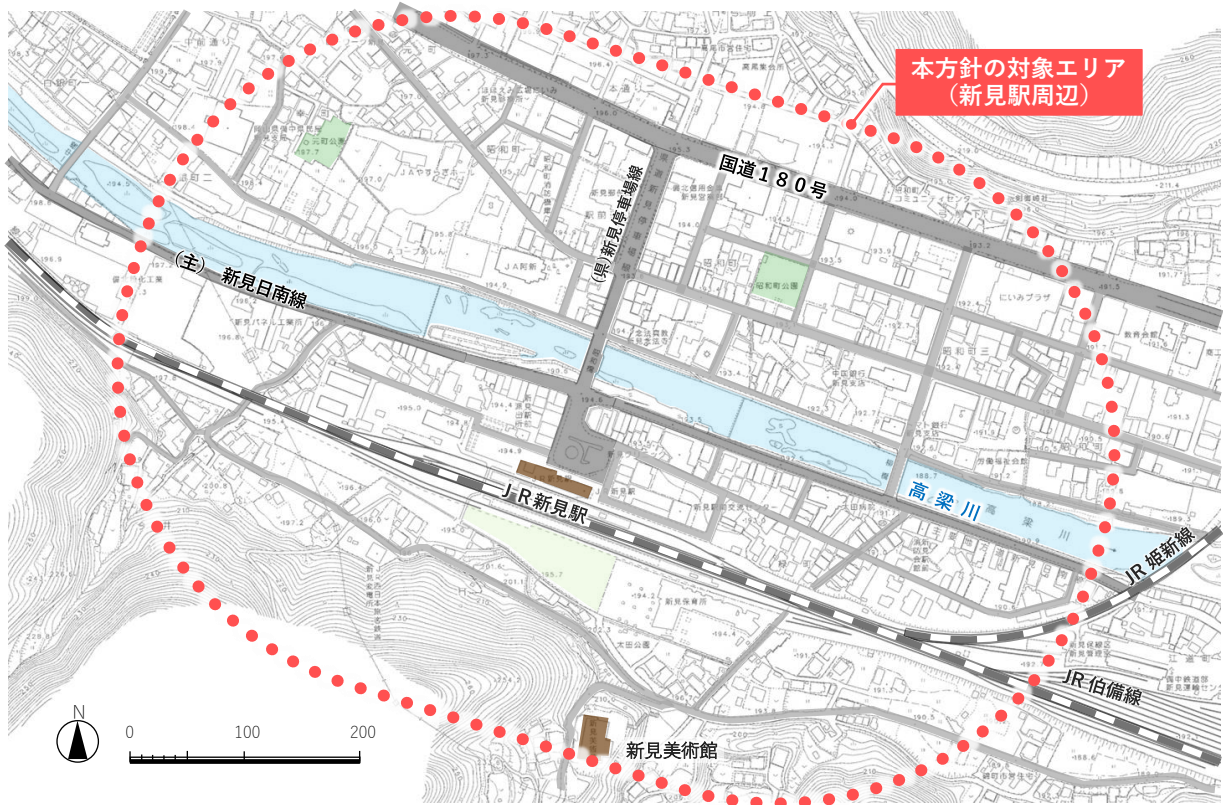
■ 基本方針の位置づけ



(3) 基本方針の対象地域

本方針では、特に重点的に都市機能の充実やにぎわいの創出を目指すエリアとして、ＪＲ新見駅を中心に下図のエリアを設定しています。

■ 基本方針の対象エリア

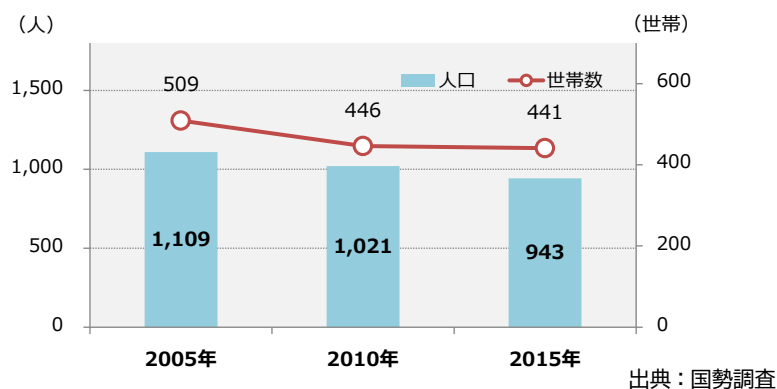


2 新見駅周辺の概要

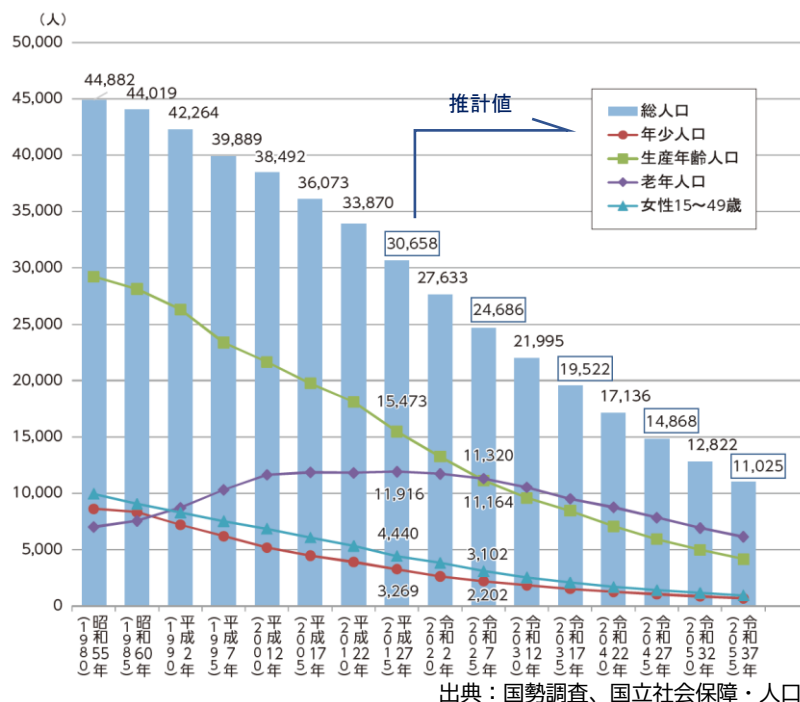
(1) 新見駅周辺の人口動態

- ・新見駅周辺の人口及び世帯数は、平成 17（2005）年、平成 22（2010）年、平成 27（2015）年において、いずれも減少傾向にあります。
- ・平成 17（2005）年から平成 27（2015）年の 10 年間で、人口については 15%の減少、世帯数については 13.4%の減少となっています。
- ・新見市内の総人口についても減少傾向にあり、将来的にも減少傾向は続くと推計されることから、新見駅周辺地域においても居住人口減少は続き、空き店舗や空き家、空き地の更なる増加が懸念されます。

■ 新見駅周辺地域の人口・世帯数の推移



■ (参考) 新見市 人口動態・将来推計

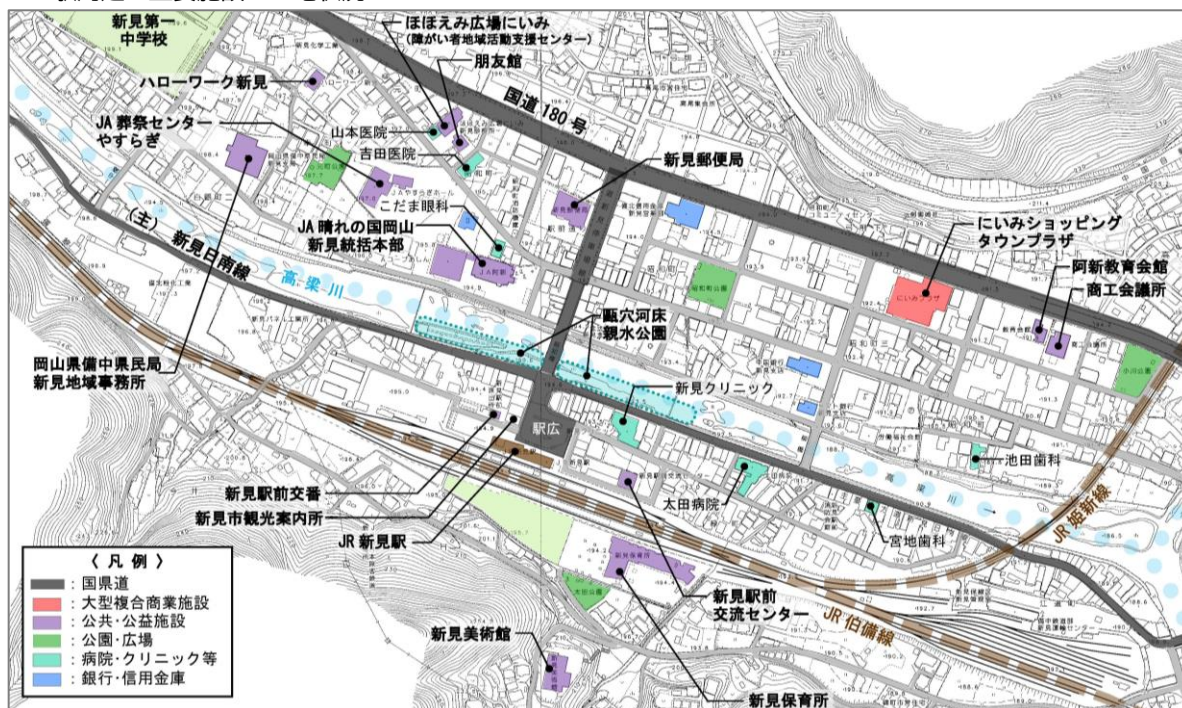


(2) 施設の立地状況

1) 主要施設の立地状況

- ・高梁川南側には、保育所や美術館、医療施設等が立地しているものの、商業施設や郵便局など、多数の日常生活の利便施設は対岸の国道 180 号周辺に立地しています。

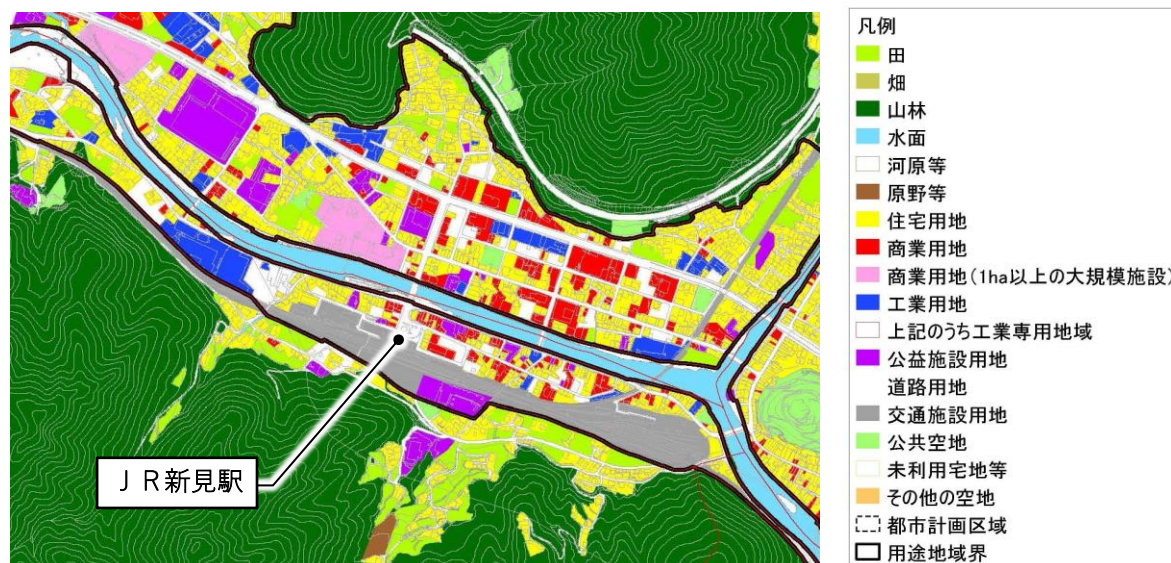
■ 駅周辺の主要施設の立地状況



2) 土地利用状況

- ・J R新見駅の北側から国道 180 号沿いにかけて、商業施設や工業用地、公益施設用地が立地しており、その背後に住宅用地が広がっています。J R新見駅南側については、山林を背後に農地と住宅が立地しています。

■ 駅周辺の土地利用状況



出典：都市計画基礎調査

3) 主要施設の現状

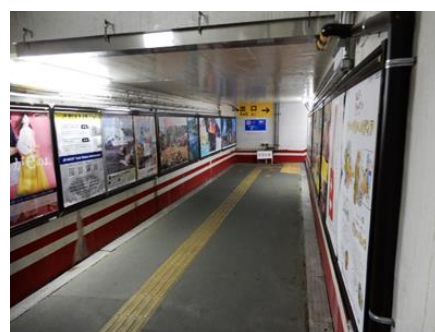
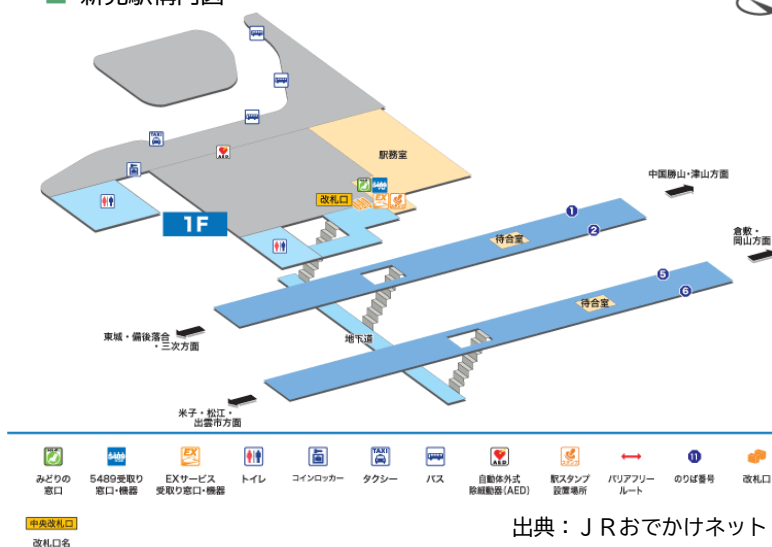
① J R新見駅

- ・芸備線、姫新線、伯備線の三線が走る要衝駅です。
- ・J R新見駅の駅舎、駅前広場は北側のみに設置されています。また、乗り換えのための地下道はバリアフリー未対応であり、車椅子等介助が必要なお客様には駅係員が対応しています。



新見駅全景

■ 新見駅構内図



新見駅地下道

出典：J Rおでかけネット

■ J R新見駅の概要

項目		概要	
駅施設	構造/ホーム	地平駅/2面6線	
	ホーム間の連絡	地下道（バリアフリー未対応）	
	改札口・出入口	北側のみ	
営業情報	乗車人員	733人/日（2019年、定期率45.4%）	
	運行本数	伯備線	上り24本（うち特急9本）、下り17本（うち特急9本）
		姫新線	平日：8本、休日：8本
		芸備線	平日：6本、休日：5本
	駅員	有人	
	設置機器台数	有人改札:1カ所/券売機:2台/簡易ICOCA改札機:1台	
結節機能		北側	南側
	駅前広場・面積	○(2,400㎡)	—
	バス	○(3バス)	—
	タクシー	○(2バス)	—
	一般車	○(駅前広場内駐車場5台、15分無料)	—
	駐車場	○(45台)	—
	駐輪場	○	—



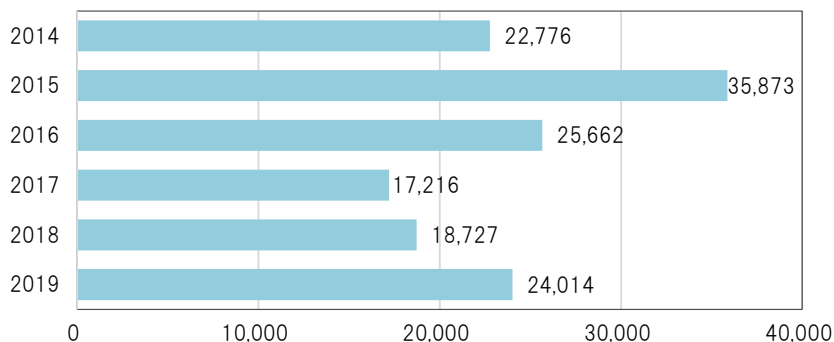
② 新見美術館

- ・文人画家富岡鉄斎の作品をはじめ、多数の美術品を収蔵する公立美術館です。1990 年の開館以降、様々な展覧会を開催しています。
- ・新見美術館の来館者数は、2015 年をピークに減少傾向にありましたが、2017 年以降は増加傾向にあり、2019 年には 24,014 人が来館しています。来館者は、岡山市、倉敷市などの県南部からが最も多く、市内や県外からも来館しています。
- ・牛丸大山を背景に、市内の風景を一望することができます。また、館の周囲は憩いゾーンとして庭園が整備され、四季を通じて新見の自然美に親しむことができます。
- ・一方、階段や急な傾斜道を経由してアクセスしなければならず、バリアフリー化や、搬入困難な美術品があることから展示品が制限されるなど、課題を抱えています。
- ・また、J R 新見駅からのアクセスについては、駅から南方面へ直接アクセスする経路が存在しないため、駅北側からの迂回が必要な状況となっています。



新見美術館

■ 新見美術館 観覧者数



出典：岡山県観光客動態調査

③ 甌穴河床親水公園（高梁川）

- ・高梁川沿いには、甌穴河床を鑑賞することができる親水公園が整備されています。護岸には壁面も整備されています。



親水公園



護岸壁面



甌穴河床

④ 商店街

- ・ＪＲ新見駅前には古くからの趣ある商店街があり、商店の数は年々減少しているものの、今も営業を続けている商店もあります。



駅前商店街

⑤ 新見市観光案内所

- ・2019年に移転開設した観光案内所です。観光案内と特産品販売に加え、予約型観光タクシー受付、レンタサイクル貸し出し等を行っています。



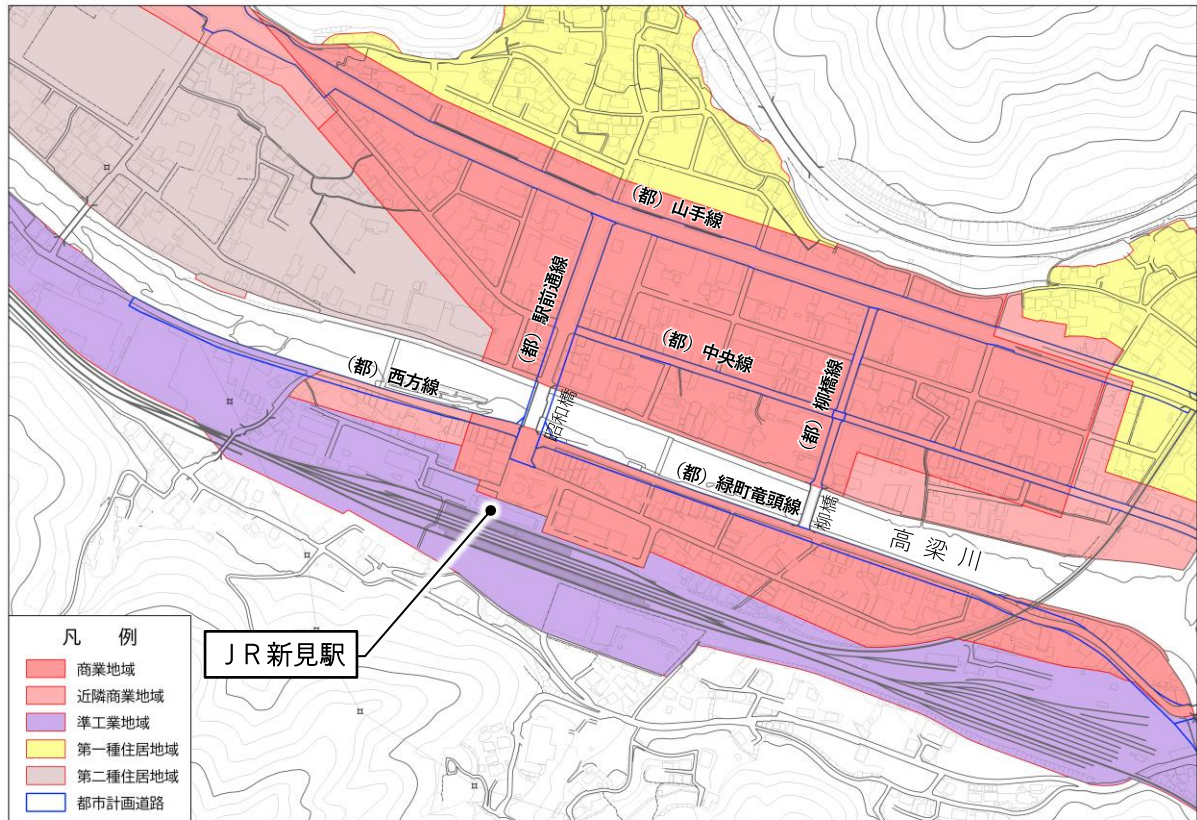
新見市観光案内所



4) 都市計画の状況

- ・主に駅の北側は商業地域、西側は準工業地域に指定されています。南側は指定のない白地区域となっています。
- ・ＪＲ新見駅の北側には、複数の都市計画道路が定められています。

■ 駅周辺の都市計画の状況

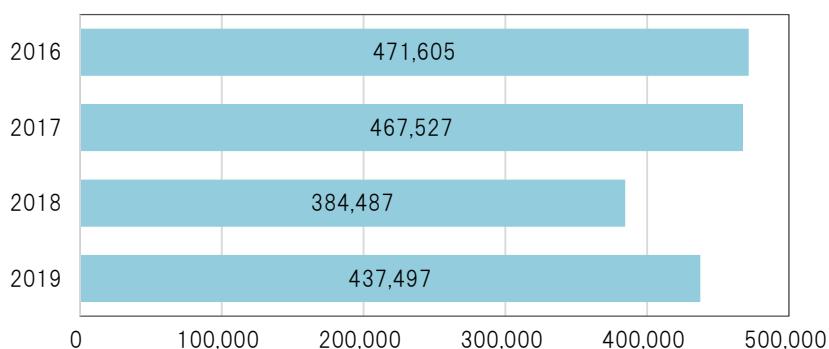


(3) 市内観光の状況

1) 観光入込客数の推移

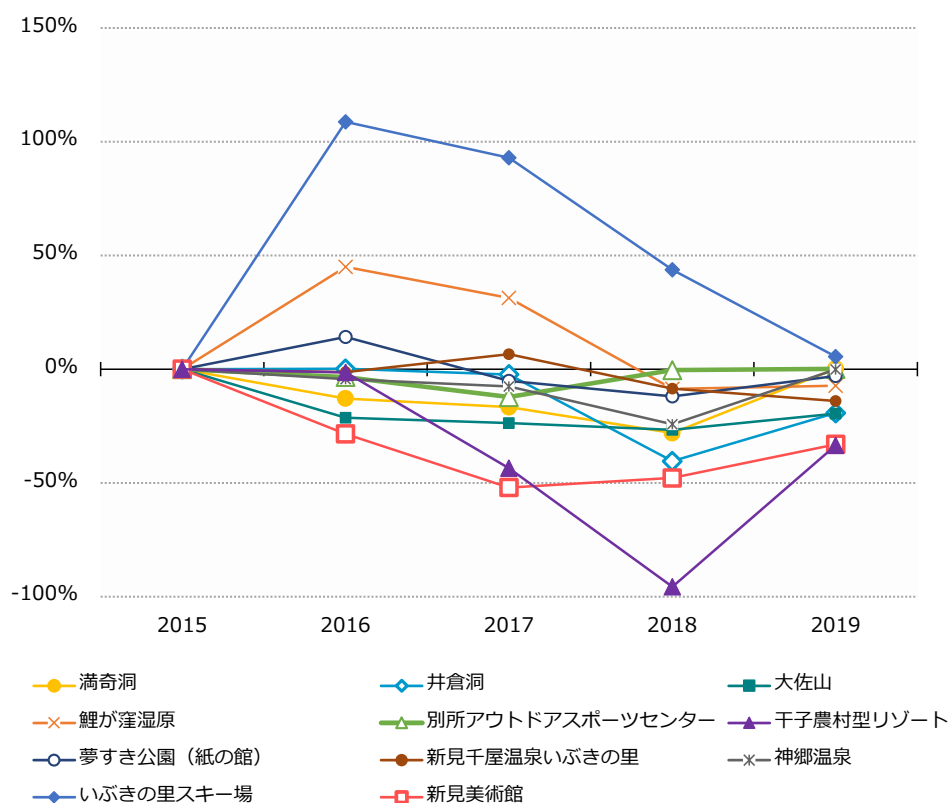
- ・市内の観光客数は減少傾向にあり、2019 年の市内の主要施設・行事の観光客数は 437,497 人です。

■ 新見市内主要施設・行事の観光入込客数



出典：新見市集計データ

■ 新見市内主要 10 施設+新見美術館の来訪者数増減率の推移（2015 年を基準とする）



出典：新見市集計データ



(4) 公共交通の状況

1) 鉄道路線の状況

- ・ J R新見駅には、東城・備後落合・三次方面から広島へ向かう芸備線、津山・佐用を通り姫路方面へ向かう姫新線、そして倉敷から出雲方面を結ぶ伯備線の三線が乗り入れています。芸備線は1日6往復、姫新線は1日8往復、伯備線については1時間に1本程度運行しています。
- ・ 2019年のJ R新見駅の乗車人員は733人/日であり、定期利用については横ばい、定期外利用については減少傾向にあります。

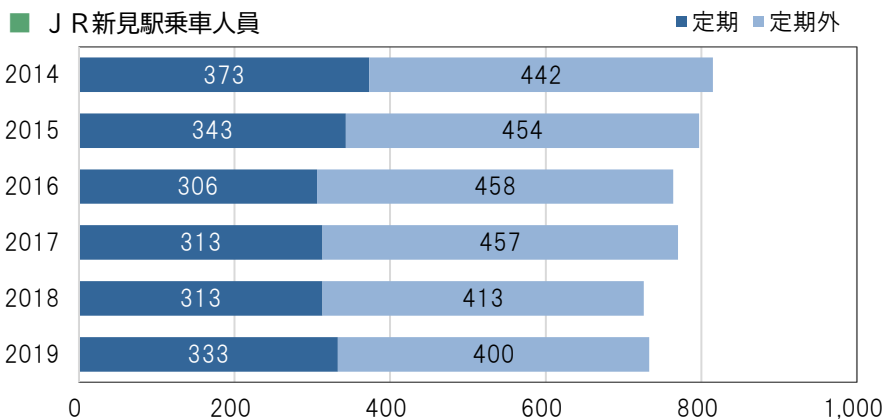


出典：J Rおでかけネット

J R新見駅の営業情報

項目	概要
乗車人員	733人/日(2019年、定期率45.4%)
運行本数	伯備線 上り24本(うち特急9本)、下り17本(うち特急9本)
	姫新線 平日：8本、休日：8本
	芸備線 平日：6本、休日：5本

出典：J Rおでかけネット



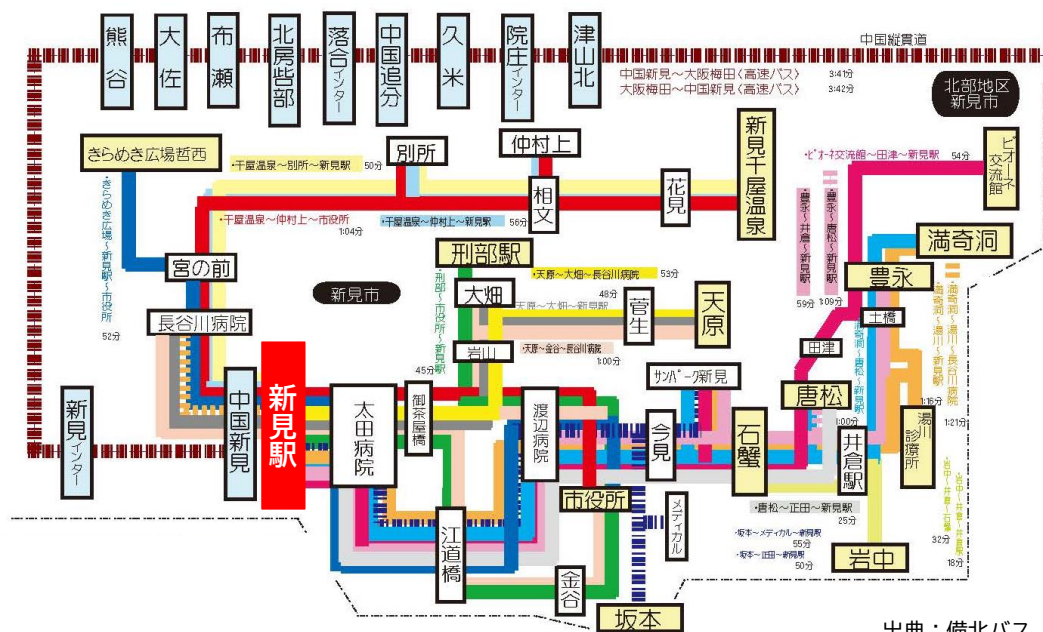
出典：J R西日本調べ

2) バス路線の状況

- ・JR新見駅からは7路線、平日 62 便/日、土日・祝日 46 便/日、日曜 39 便/日が運行されており、全て駅前広場を発着します。

	方面	総本数（便/日）		
		平日	土・祝	日曜
備北バス 「新見駅」	循環バス「ら・くるっと」	13	13	13
	渡辺病院・新見駅～ピオーネ交流館・満奇洞	11	8	7
	渡辺病院・新見駅～菅生（天原）	11	7	5
	刑部駅→新見駅・渡辺病院	1	—	—
	市役所・新見駅～千屋温泉	14	10	8
	市役所・新見駅～きらめき広場（哲西）	3	—	—
	渡辺病院・新見駅～坂本・川上バスセンター	9	8	6

■ 備北バス系統略図（北部地域抜粋）



出典：備北バス

■（参考）その他の交通手段「新見市予約型観光タクシー」

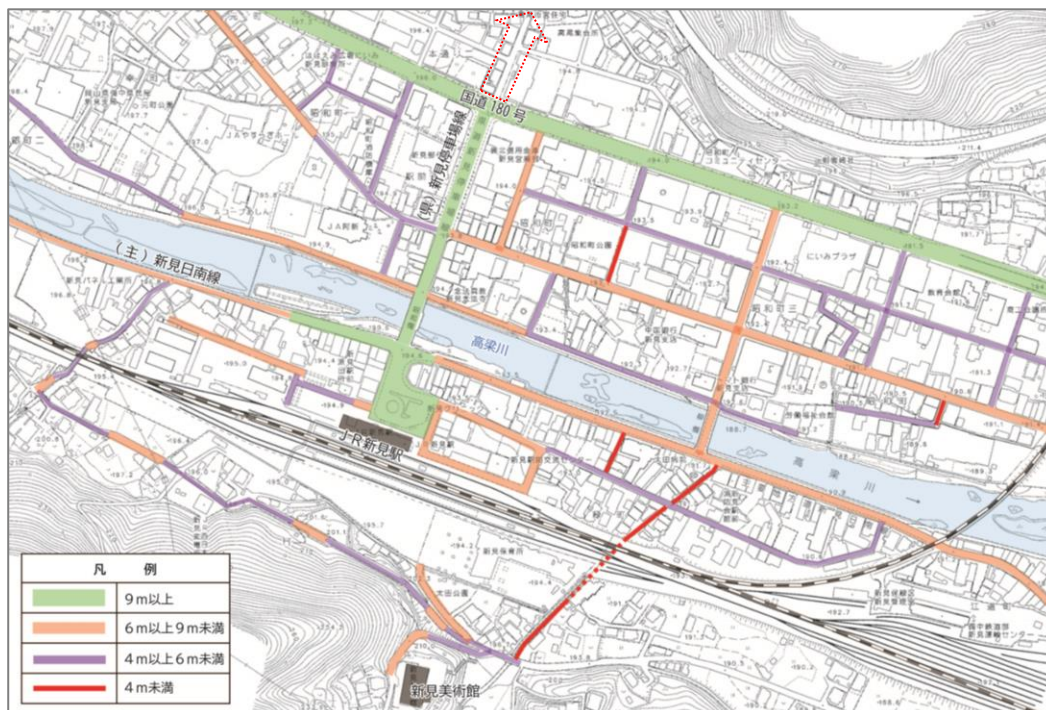
- ・市内の観光地を十分に周遊していただくことを目的として、市内の観光及び食事・宿泊等にタクシーを利用した場合、1／2の運賃でご乗車いただける予約型観光タクシーを運行しています。

(5) 道路交通ネットワークの状況

1) 主要道路の状況

- ・北側には国道 180 号があり、駅前広場までは県道新見停車場線で接続されています。また、県道新見停車場線から主要地方道新見勝山線へのバイパスが計画されています。
- ・J R新見駅から新見美術館へのルートは、駅東へ迂回する必要があります。駅東側の地下道は大雨時には通行できなくなる場合があります、駅南側へのアクセス路は限定されています。
- ・高梁川沿いの道路は、一部歩道や遊歩道が整備されていますがネットワークが十分ではありません。

■ 幅員別道路現況



■ J R新見駅から新見美術館へのアクセス経路



(6) 地区を取り巻く状況

1) 地区周辺の状況

① 新見公立大学の改組による学生数の増加

- ・2019年4月より、新見公立短期大学地域福祉学科と幼児教育学科（2年制）が新見公立大学（4年制）へ改組されました。定員の増加も伴い、学生数が増加しています。

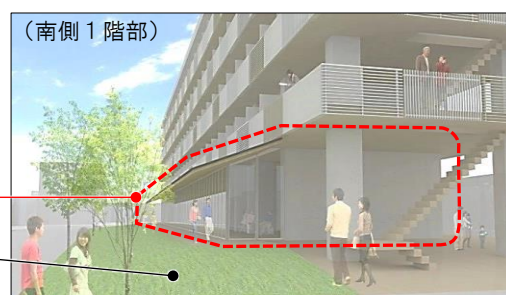


新見公立大学

② 新見駅西エリア整備事業

- ・新見公立大学の学生数増加に伴う学生住居の不足、駅周辺地域の活力低下という課題を解決すべく、学生向け賃貸住居とフリースペースを備えた学生居住棟が整備されています。

■ 新見駅西エリア整備事業のイメージ



③ 令和元年9月の集中豪雨による被害

- ・令和元年9月、新見市を襲った集中豪雨により、新見駅周辺で土石流や床上浸水の被害が発生しました。
- ・これを受け、岡山県が緊急砂防事業により砂防堰堤を整備しました。市においても、流水断面の確保等、雨水対策事業を進めています。



豪雨災害の被害状況



水路の復旧整備箇所

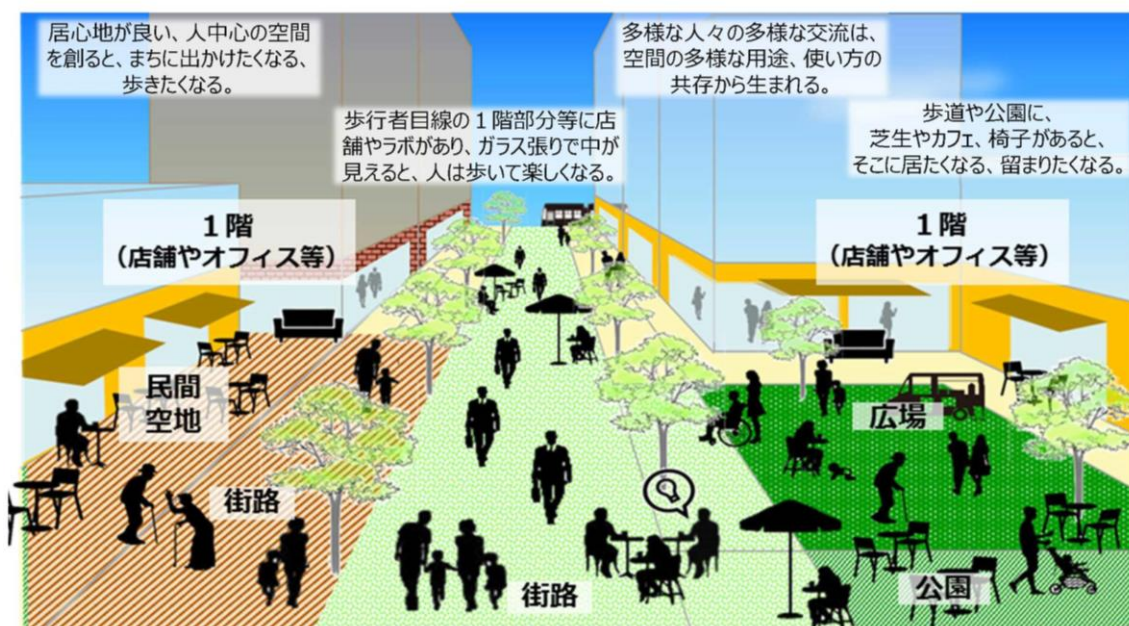


2) 全国的なまちづくりの潮流

① ウォーカブルなまちづくりの推進

- ・人口減少や少子高齢化が進み、地域の活力の低下が懸念される中、都市の魅力を向上させ、まちなかににぎわいを創出することが、多くの都市に共通して求められています。
- ・居心地よい歩行空間や滞留スペースを生み出すことで、まちなかを車中心から人中心の空間へと転換し、人々が集い、憩い、多様な活動を繰り広げられる場を創出する取組が各地で行われています。

■ ウォーカブルなまちづくりのイメージ



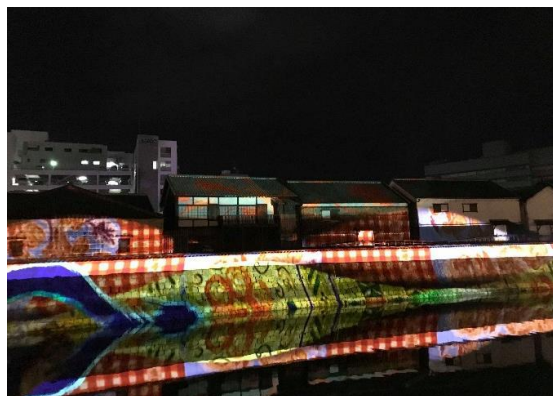
沿道施設と一体となった道路整備による
ウォーカブルな憩い空間の創出（松山市）



くつろぎの場提供やにぎわいづくりに向けた社会実験
（姫路市）

② 地域と芸術が連携したまちづくり

- ・美術館を飛び出し、まちなかや自然の中でアート作品を鑑賞する取組が各地で行われています。アート作品と、背景となる自然・街並みの融合を楽しんだり、美術館とまちが連携したイベント開催などにより、一味違った芸術鑑賞ができ、アートをより身近に感じることができます。
- ・近年は、建物や河川護岸等へのプロジェクションマッピング等も開催されており、普段とは違う、夜の景観を楽しむイベントとして注目されています。



河川でのプロジェクションマッピングイベント（左：大阪市、右：長崎市）



空地を利用したアート作品の展示（十日町市）



まちなか音楽会（大阪市）



街並みを活かしたアート作品の展示（宇陀市）



③ かわまちづくり

- ・「かわまちづくり」とは、「かわづくり」と「まちづくり」を一緒に考え、市町村、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組のことであります。
- ・水辺に親しむための整備を行うことで、「かわ」と周辺の歴史・文化資源の連携による観光利用や、散策やリハビリなどの福祉利用を促進することができます。
- ・本地区の駅前河川環境においては、既に整備された親水空間と周囲の駅周辺エリアとのつながりといった視点で、まちづくりを検討していく必要があります。



川の眺望を楽しみながら休憩できるテラス空間の設置（広島市）

■ かわまちづくり支援制度の概要

ソフト施策による支援

- ・都市・地域再生等利用区域の指定等による民間事業者等のオープンカフェ等への河川空間の多様な利活用の促進
- ・優良事例に関する情報提供や必要な調査等により、計画の実現を支援

都市・地域再生等利用区域の指定の適用事例



オープンカフェの設置
(京橋川／広島市)

先進的な取組の情報提供

賑わい拠点の整備
(木曽川／美濃加茂市)

ハード施策による支援

- ・治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理用通路や親水護岸等の施設整備を通じ、まちづくりと一体となった水辺整備を支援。
(市町村、民間事業者が河川空間の利用施設を整備)



親水護岸の利用
(新町川／徳島市)

④ ニューノーマルに対応したまちづくり

- ・2020年以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、デジタル化の進展も相まって、テレワークの急速な普及、自宅周辺での活動時間の増加等、人々の生活様式は大きく変化してきました（ニューノーマル）。これに伴い、ワークライフバランスの重視など、「働き方」や「暮らし方」に対する意識や価値観が変化・多様化しています。
- ・「働く」「暮らす」場である都市に対するニーズも変化・多様化しています。まちづくりにおいては、人々のライフスタイルに応じた多様な働き方・暮らし方の選択肢を提供していく必要があります。
- ・空き家をコワーキングスペース等へリノベーションし、自宅以外のワークスペースを生み出したり、街路などのオープンスペースの柔軟な活用によりゆとりある屋外空間を生み出すなど、都市の中の既存ストックを最大限に利活用することが求められています。



民間と連携した公園のリノベーション・利活用



街路空間の利活用（イメージ）

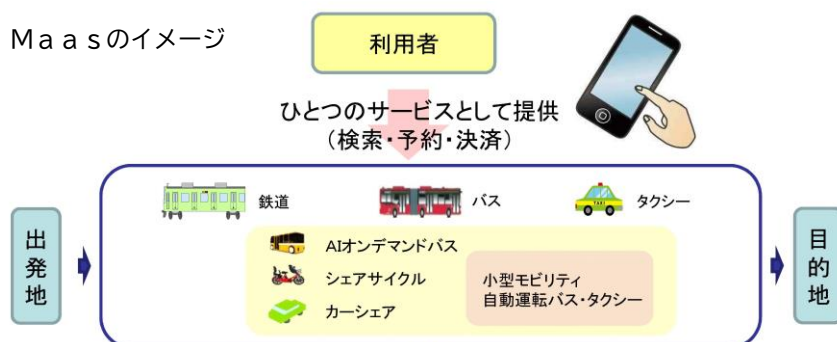


コワーキングスペース（イメージ）

⑤ 新たなモビリティの進展

- ・IoT等の活用により、あらゆるモビリティ（交通手段）を切れ間なくつなぐ移動サービス「MaaS※」の普及が期待されています。
- ・サービスを支える環境整備として、バリアフリー化を含めた駅の改修など、誰もが利用しやすい交通結節点の整備等の取組が模索されています。

■ MaaSのイメージ



※「Mobility as a Service」の略で、地域住民や旅行者一人一人の移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスのことです。観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となります。

⑥ SDGs（持続可能な開発目標）

- ・ 2015 年、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のために、国連で 2030 年を年限とする 17 の国際目標が採択されました。



持続可能な開発目標（SDGs）

3 上位・関連計画の整理

(1) 第3次新見市総合計画（令和2年6月策定）

将来像	人と地域が輝き 未来につながる 源流共生のまち・にいま
施策展開の方向性	5 都市基盤・交通～人と環境に配慮した質の高い都市基盤をつくる～
行動計画	5-2 住環境・情報通信

① 市街地の整備に向けた取組

新見駅周辺まちづくりについては、**本市の玄関口として、にぎわい・交流の創出及び子育てを支える都市環境づくり**を目指して検討を進めます。

② 住宅の安定供給の推進

新見公立大学の学生数の増加に対応するため、**民間活力による学生の住居整備を促進**します。

(2) 新見市都市計画マスタープラン（令和2年11月策定）

都市づくりの将来像	未来につなぐ「産業・健康・自然」共生のまち・にいま
全体構想	

1. 土地利用の方針（抜粋）

- 新見駅周辺における**にぎわい・交流空間の整備**
- 立地適正化計画を活用した都市機能の集約
- 中心市街地周辺の商業・業務地の検討

- **居住ニーズに合わせた住環境づくり**

地域別構想

【地域の将来像】

**市の玄関口として、にぎわい・交流の創出
及び子育てを支える都市環境づくり**

【主要施策】

- **新見市の玄関口にふさわしい「新見の交流空間」の整備**
 - ・ひとの交流促進
 - (市民・学生・観光客の交流施設
 - +増加が見込まれる学生用の賃貸住宅の整備)
 - ・子育てを支える都市環境の整備
- 高次都市機能の立地誘導による地域全体の利便性の向上と活性化
 - ・魅力向上とにぎわい創出に資する都市機能の誘導促進（教育文化・商業施設の立地促進）
 - ・拠点機能の高度化に資する都市機能の再編
- 若年層の定住を誘導する子育て支援施設の維持
- 歩いて楽しめる回遊性の確保
- 親水空間や散策路等の充実
- 構想路線・都市計画道路の未整備区間の整備推進

■ 新見駅を中心とした西方・高尾地域「まちづくり方針図」



(3) 新見市国土強靱化地域計画（令和3年3月策定）

基本目標

- ①人命の保護が最大限守られること
- ②市及び社会の重要な機能が致命的な障害を受けずに維持されること
- ③市民の財産及び公共施設に係る被害の最小化が図られること
- ④迅速な復旧復興を可能にすること

リスクシナリオごとの推進方針

事前に備えるべき目標1：直接死を最大限に防ぐ

- 1-2 市街地や不特定多数が集まる施設における大規模火災による多数の死傷者の発生
 - 防災や減災に留意した都市づくりの促進
- 1-3 突発的又は広域かつ長期的な市街地等の浸水による多数の死傷者の発生
 - 災害に配慮した適切な土地利用の推進

事前に備えるべき目標2：救助・救急、医療活動が迅速に行われているとともに、被災者等の健康・避難生活環境を確実に確保する

- 2-5 想定を超える大量かつ長期の帰宅困難者の発生、混乱
 - 観光拠点施設の防災機能、防災体制の強化

(4) 新見市立地適正化計画※（令和3年度公表予定）

※本計画に関する内容は検討中のものであり、計画公表の際、一部変更する場合があります。

市全域における「まちづくりの方針」ターゲット

- ・本市の活力を維持・向上させ、総合計画に掲げる「人と地域が輝き 未来につながる 源流共生のまち・にいきみ」を実現するため、『市街地エリア』『地域拠点エリア』それぞれが、地域の個性（自然環境、医療、文化、モノづくり等）を最大限に活用し、エリア間の役割分担と連携による「多極ネットワーク型のまちづくり」を進めていきます。

『市街地エリア』（※本エリア該当）：

「新見都市計画区域」/市内外にわたるひと・モノ・情報(仕事)の結節点

目指すべき都市の骨格構造

【拠点の位置づけ】

新見駅周辺～新見 I C 周辺地区：市街地中心拠点として都市機能誘導区域を設定

新見駅周辺～新見 I C 周辺地区における施策の方向性（ストーリー）

- I 市民にとって利便性の高い、魅力ある中心市街地の再生
- II 訪れやすく、回遊しやすい市街地空間づくり
- III 医療・福祉分野を中心とした地域共生拠点づくり
- IV 学生が暮らしやすい市街地の形成

4 まちづくりワークショップの結果（概要）

（１）まちづくりワークショップの開催概要

- ・新見駅周辺の現状・課題を踏まえ、都市機能の充実やにぎわい創出を目指し、市民・行政による協働のまちづくりを実現するため、広く意見・アイデア出しを行ってもらう「まちづくりワークショップ」を開催しました。
- ・ワークショップには、高校生、大学生、地元住民、公募市民などにご参加いただきました。A～C班の3班に分かれ、各班で活発な議論が行われました。

	開催概要	内 容
第1回	日時：令和2年12月16日（水） 18:30～20:00 場所：新見市役所	「新見駅周辺の現状・課題認識と強み・資源への気づき」と「まちづくりの方向性」とテーマを考えよう！
第2回	日時：令和3年1月29日（金） 18:30～20:00 場所：新見駅前交流センター	方向性を踏まえた「目指す将来像（ライフスタイルや空間像）」とその具体化に必要な「ひと・もの・こと」を考えよう！
第3回	日時：令和3年3月10日（水） 18:30～20:00 場所：新見駅前交流センター	将来像の実現に向けた「役割分担」と「アクションプログラム」を考えよう！



まちづくりワークショップの様子



2) 第2回まちづくりワークショップ

「ワーク」やりたい「こと」、それに集まる・それを仕掛ける「ひと」、 必要になる「もの」を考える

・各班、多数の意見がありましたが、主に以下の内容が議論されました。

分野	やりたい「こと」 (駅周辺エリアでの過ごし方)	それに集まる「ひと」 それを仕掛ける (ターゲット=担い手・仕掛け人)	必要になる「もの」(場所・空間)	
			恒久的な施設空間 等	簡易・仮設的な空間 等
にぎわい促進	【イベント・市場・物産展】 ・定期的なイベントを楽しみたい (台車カートグランプリ、仮装パーティー、映画撮影、演奏会、各種コンテスト、餅つき大会、盆踊り、かくれんぼ大会等) ・軽トラ市場やフリマを楽しみたい	・学生(若者)、市民 ・観光客 ・イベントを主催したい人(仕掛人) ・新見公立大学ダンス部(仕掛人) ・飲食店主(仕掛人) ・売りたい人(仕掛人) ・コミュニティ・パーソン(仕掛人)	・道の駅 ・屋外の屋根付きホール施設 ・屋根付きの広いスペース ・広めの公園 ・常設のステージ ・公共交通(バス等)の充実 ・公共トイレ、ロッカー、PA(音響設備)	・広場(空き地・駅前広場)で ・屋外オープンスペースで ・歩行者天国空間の道路等で ・仮設トイレ・駐車場 ・仮設の水道 ・イベント時限定のバス等の増便 ・おいしいお酒が必要(三光正宗の日本酒等)
	【学園祭・お祭り】 ・駅前で学園祭(鳴滝祭) ・大学生と一緒にイベント ・住民・学生交流・イベント	・市民、住民 ・観光客	・美術館と連携した空間で ・保育所と連携した空間で →駅のバリアフリー化、南北通路が必要 ・駐車場	・広場(空き地・駅前広場等)で
	【学生複数で騒ぎたい】 (駅前の子供部屋) ・友達と遊びたい・騒ぎたい ・Wi-Fiの利用(子供ゲーム利用)	・学生(小・中・高・大) ・高校生、大学生、小学生	・児童館	・レンタルスペースで ・冷暖房完備の空き家で (自由出入可) ・空地进行して
	【子ども遊び】 ・スケートボード ・ゲーム大会、仮装大会 ・子どもと時間をつぶす	・未就学の子供(幼児) ・家族(子育て世帯) ・民間事業者(仕掛人)	・アスファルト空間+休める空間(屋根があればより良い)(スケートボード) ・遊具(ボルダリング)+休める空間 ・屋根とWi-Fi、ゲーム機等	・イベント装置(ショッピングセンターにある子供が遊べる風船等)
日常的レクリエーション	【お酒や食を味わい楽しむ】 ・夜景を楽しみながらワイン、千屋牛 ・集まって飲み食い等楽しむ ・飲み歩き大会 ・ビアガーデン ・バーベキュー ・屋台で食べる ・電車の待ち時間に一杯ちよい飲み	・地域住民、居酒屋の常連客 ・仕事で新見に来る人、観光客 ・若者(学生)、子育て中の人 ・民間事業者(仕掛人)	・道の駅 ・レストラン、新見名物を生かしたオリジナルファストフード店 ・リピーター常連さんのいる居酒屋 ・日がわりオーナー店舗 ・つまみ、ステキな料理、プロジェクター、音楽がある店舗	・屋台(キッチンカー)ラーメンなど ・駅前で高校生の販売実習と連携 ・プロジェクター・イルミネーションで 彩る ・美術館を活用して (眺めは良いが、アクセスが課題)
	【お茶等でゆっくり過ごす】 (快適・有意義な待ち時間) ・カフェ等でゆったりとした時間 楽しい時間を過ごしたい ・時間をつぶしたい(有意義に過ごしたい) ←観光客に対しても ・待ち時間を暖かく過ごしたい	・地域住民(母親、高齢者等) ・若者(学生) ・駅利用者 ・観光客 ・時間をつぶしたい人(電車待ちの人)	・ブックカフェ、オープンカフェ ・学生に手頃な値段のレストランカフェ ・空調の整った場所 & 子どもの遊べる コーナーがあるところ ・駅舎の再整備(機能強化)による待合室 (Wi-Fi、冷暖房付き、軽食提供機能付き) ・団小屋	・ベンチ、パラソルがあれば屋外で ・仮設コンテナでカフェ等 ・女子対象のグランピング施設(テント等) ・空き家を利用したカフェ ・民間の軒先等の空間を開放して ・観光協会の活用(入りやすい工夫を) ・現・駅舎を活かして
観光PR	【駅前ギャラリーで観光PR】 ・駅前ギャラリー ・地元住民参画の芸術回廊 ・トロッコ列車(奥出雲おろち号)、 蒸気機関車DS1・三重連走等のPR ・観光地へのアクセス情報提供	・観光客 (観光客が駅にいながら新見を 感じられること、便利と思える 出発地であることが重要)	・駅舎の再整備(機能強化)による待合室 などで ・オープンカフェ ・景観整備も必要 (案内看板のデザイン・色調の統一、 ガードレールのペンキ塗り(景観色))	・現・駅舎を活かして ・空き家、空き店舗を活用して ・駅舎の通路や壁面を利用した絵画掲示 やプロジェクションマッピング ・レンタルショーケースの導入 ・PR看板、ポスターを増やす
生活支援	【しずかで勉強・仕事等で過ごす】 ・しずかでやすらぎのある空間での 勉強、仕事(リモートワーク)、読書 ・料理教室	・学生、市民・住民 ・サラリーマン	・コワーキングスペース ・カフェ、塾等の設置 ・熱い健康、水と緑のみんなの公園 ・キッチンスタジオ	・レンタルスペースで ・ベンチ、テーブル、パラソル、ポータブル 電源・Wi-Fi、仮設トイレ、自然・ 植物のある屋外で(春、秋)
	【保育支援】 ・平日夕方以降土日祝の保育支援	・子ども、親子 ・高齢者、保育士OG(仕掛人) ・保育士のOG、卵(仕掛人)	・一時保育施設 ・新しくできる学生棟(1F)を利用し、 ちびデポサークルと連携して実施	・レンタルスペースで ・公園や空き家で ・仮設コンテナで(一時保育事業)
運動レクリエーション	【川遊び】 ・自然(川や山)の景観を楽しむ ・子供、市民の川遊び、BBQ ・マス釣り大会、釣り堀 ・ラフティング、ラインスライダー ・カヌー体験、ダンボール川下り ・鯉の放流(昭和橋の下) ・イルミネーション	・市民・住民(子供・大人) ・観光客(県外の人)	・整備された河川敷空間 ・遊歩道整備(まちにもつながり回遊し ていけるように) ・川での取組みを行う上で、県等の許可 の柔軟化・簡素化が必要 ・そもそもの許認可の仕組みの問題の 解決が必要 ・あくまで駅が拠点になるように	・高瀬川にてプロジェクションマッピング (新見の庄等の新見の歴史ストーリー等) ・歴史的遺構である高瀬舟発着所 の利活用
	【散歩・ウォーキング】 ・ウォーキング大会・街なみ散策 ・周辺の自然・植物・歴史ウォーキング ・美術館やまちを訪ね回る散策	・高齢者、親子、観光客 ・歴史に詳しい人(仕掛人) ・グラフィックレコーディング のプロ(仕掛人)	・ルート設定(基本ルート、バリアフリー とバリア有りが混在する散策ルート) ・ユニバーサルデザインによる散策ルート ・案内板(常設)	・案内板(仮設)
	【総合・全体】	・若者(学生) ・市民	・複合的な機能空間を備えた施設が必要 ・コンパクトシティ(駅10分以内に 複合的な機能の集約的な整備が必要) ・いずれの取組みでも情報発信は必要	-



3) 第3回まちづくりワークショップ

【ワーク】やりたい「こと」を実現するための「役割分担」と 「アクションプログラム」を考える

A 班

最も
やりたい
「こと」

※（第2回ワークショップで出た「やりたいこと」より選択）

- 学生複数で騒ぎたい
- お酒や食を味わい楽しむ
- お茶等でゆっくり過ごす(快適・有意義な待ち時間)
- しずかに勉強・仕事等で過ごす

★学生・地元住民等による多目的な利用を可能とするスペースが必要



- ・目的に応じて時間割り・空間割りを行う
- ・周辺既存施設も含め、必要な機能のバランスを見ることも大切

【進め方】

- ・地域の住民・学生・事業者で実現できることから
(空き地にテーブル・イスを設置することからでも)

【場所・空間】

- ・空き地にコンテナ・ウッドデッキを設置して生み出す(+芝生化も)
- ・空き家、空き事務所を活用する



© 2012 佐賀市街なか再生会議

【役割分担】

地元住民・団体	・駅前商店街との調整・コミュニケーション ・古本を集め、図書館の分室的なコーナーづくり（駅前住民が管理人）	新しい担い手団体の 組織化が必要
大学生・高校生	・バリスタ（カフェ店員） ・1～2年生を主体とし、世代交代していく	
民間事業者	・ノウハウ、人、資材、財源の確保 ・学生支援	
新見市・JR (担ってほしいこと)	・場所の確保に向けた仲介・調整支援 ・南北アクセス強化（仮設的にでも）	

B 班

最も
やりたい
「こと」

※（第2回ワークショップで出た「やりたいこと」より選択）

- お茶等でゆっくり過ごす（快適・有意義な待ち時間）
- お酒や食を味わい楽しむ

★日常レクリエーションスペースが必要
（3時間電車を待てるだけのスペースを考えてみる）

- ・駅前で気軽に座れるベンチが少なくなった



【場所・空間】

- ・空き店舗の活用
- ・駅前広場（歩道部等）の活用

〈ベンチのデザイン案〉



【役割分担】

地元住民・団体	・安心して利用できる環境の確保（見守り等）
大学生・高校生	・コーヒーを出す ・SNSで生み出したスペースを発信・宣伝する
民間事業者	・様々な機能を持った椅子の設置 ※椅子のデザイン検討（上図参照） ・屋根（パラソル等）の設置 ・屋台村のような色々なお店の定期的な出店誘致
新見市・JR （担ってほしいこと）	・Wi-Fi 整備 ・市による助成金の支援

C 班

最も
やりたい
「こと」

※（第2回ワークショップで出た「やりたいこと」より選択）

- （1）アートイベント（演奏会等）
- （2）川遊び（イルミネーション）
- （3）お茶等でゆっくり過ごす（快適・有意義な待ち時間）
- （4）駅前ギャラリーで観光PR

★全てを美術館・アートでつないだスペースが必要



【場所・空間】

- （1）美術館の移転先（駅ウラ遊休地など）
- （2）高梁川
- （3）駅前、観光協会など
- （4）駅舎の通路や外壁面

	（1）アートイベント	（2）川遊び等	（3）お茶等	（4）駅前ギャラリー
地元住民・団体	・実行委員会の設立・運営	・イルミネーション等の設営支援	・使いになす	・ギャラリーへの出店
大学生・高校生	・ボランティアとして参画・支援	・イルミネーション等の設営支援 ・催しコンテストの実施	・使いになす	・美術部の出展
民間事業者	・催しの主催、出店	・イルミネーション等の設置	・カフェ等の出店	・協賛金による支援・広報
新見市・JR （担ってほしいこと）	・美術館の駅前への移転 ・バリアフリー化・南北連携強化+水害対策	・河川での取組み・手続き等の規制・緩和	・既存の駅前観光協会を入りやすくする	・プロの作家への出展依頼

アートでつなぐ

5 市民・学生等アンケート調査結果（概要）

（1）アンケート調査の実施概要

1）調査主体

・新見市

2）調査目的

・新見駅周辺のまちづくりにおける、基本構想作成に向けた利用者等の意向反映のため

3）調査対象

- ① 18歳以上の市民 1,000人
- ② 新見公立大学生 650人（全学生）
- ③ 新見市内全高校生 610人
（岡山県立新見高等学校、岡山県共生高等学校）
- ④ 施設利用者
（JR新見駅、新見美術館、新見市役所、
大佐支局、神郷支局、哲多支局、哲西支局）

4）調査時期

・令和3年6月

5）調査方法・回収数

対 象	調査方法	回収数（回収率）
①一般市民（1,000人）	・郵送による配布・回収	477（47.7%）
②新見公立大学生	・WEBによる配信・回収	536（82.5%）
③高校生	・学校への一括配布・回収	591（96.9%）
④施設利用者	・常設アンケートの設置による配布、現場回収 ・Webによる配信・回収	251（—）

(2) アンケート調査結果（概要）

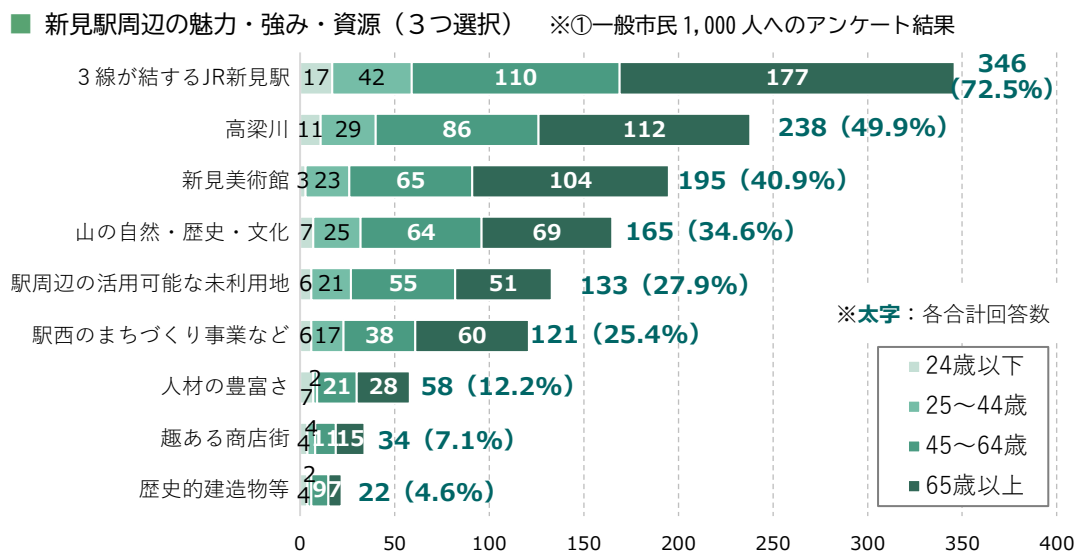
1) 駅周辺の目的別利用頻度（公共交通目的、飲食・買い物等目的）

- ・「公共交通目的」での新見駅周辺の利用については大学生とJR新見駅利用者以外、「飲食・買い物等」を目的とした利用については、全てのアンケートで「ほとんど利用しない」が最多となっています。
- ・一方、公共交通目的での駅周辺の利用について、大学生は半数以上、高校生は4割以上が月数回以上利用しています。
- ・施設利用者（駅・美術館等）の約4割は、飲食・買い物等を目的として駅周辺をほとんど利用していません。

2) ワークショップで出た意見への賛同性

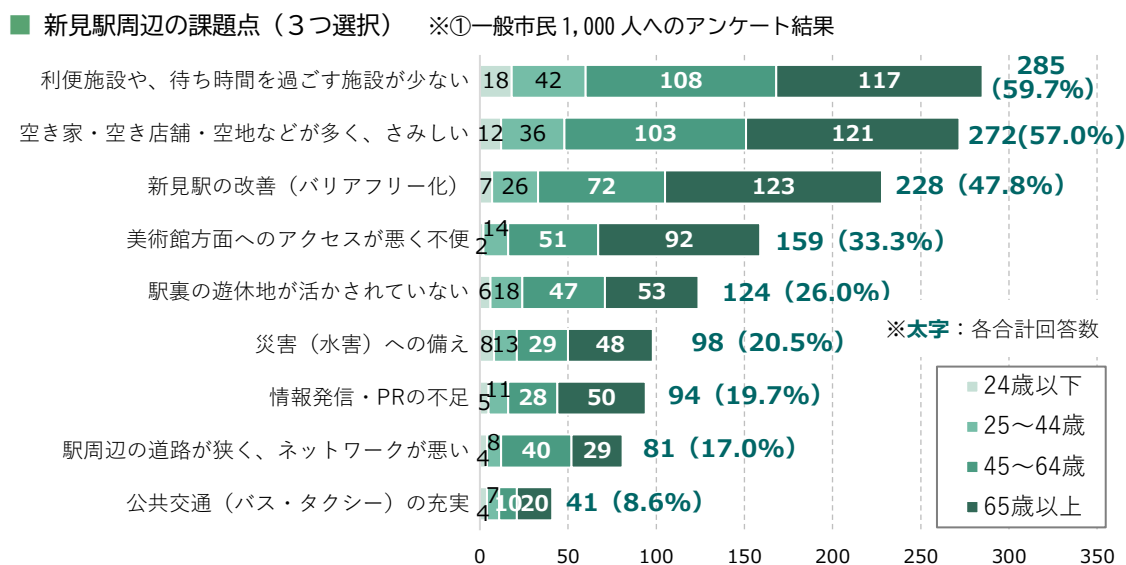
① 新見駅周辺の魅力・強み・資源について（3つ選択）

- ・いずれのアンケートでも「新見駅」「山の自然・歴史・文化」「高梁川」の選択率が高くなっています。
- ・「新見美術館」について、一般市民、施設利用者では選択率が高くなっていますが、大学生、高校生では、選択率が比較的低くなっています。



② 新見駅周辺の課題点について（3つ選択）

- ・いずれのアンケートでも「**利便施設や、待ち時間を過ごす施設が少ない**」が**最多**となっています。その他、共通して「**空き家・空き店舗・空地等が多くさみしい**」「**新見駅の改善（バリアフリー化）**」の選択率が高くなっています。
- ・「美術館方面へのアクセスが悪い」については、一般市民、新見美術館利用者アンケートでは選択率が高くなっていますが、大学生、高校生アンケートでは選択率が低くなっています。
- ・大学生は、「公共交通の充実」の選択率が高くなっています。



③ 将来の新見駅周辺の姿として、望ましいと思うキーワード（3つ選択）

- ・大学生アンケートでは、「やる気・ワクワク・バラエティ」が最多となっています。新見美術館利用者アンケートでは、1位が「未来に向けたまちづくり」、2位が「自然・環境」、3位が「芸術」となっています。
- ・その他のアンケートでは、「**未来に向けたまちづくり**」と「**住み心地・住み継ぎ**」が1位と2位になっており、いずれも将来へつながるキーワードの選択率が高くなっています。

④ 新見駅周辺において、どんな空間や施設があったら良いと思いますか（3つ選択）

- ・全てのアンケートで「**待ち時間が過ごせる空間**」が**最多**であり、4割以上が選択しています。また、「**若者から高齢者まで集い楽しめる空間**」、「**定期的なイベントが行える広場空間**」の選択率が高くなっています。
- ・大学生、高校生では、「勉強等で静かに過ごせる空間」の選択率が高くなっています。

⑤ ワークショップで出された、学生や民間事業者が参画する取組アイデアについて、特に魅力的だと思うものはどれですか（3つ選択）

- ・「空家、空き事務所の有効活用」「コンテナ等の設置による広場空間づくり」の選択率が高くなっています。
- ・新見美術館利用者では、「美術館と連携したアートイベント開催」が最多となっています。
- ・新見美術館利用者を除き、「屋台村のようなお店の定期的な出店誘致」の選択率が高く、大学生、高校生は「学生主体のカフェコーナーの運営」の選択率が高くなっています。

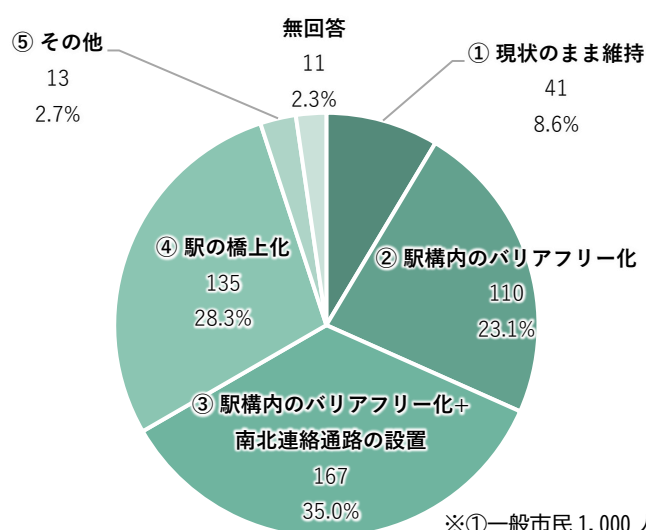
3) まちづくりへの参加意欲

- ・いずれのアンケートでも「③内容次第で参加」が最多となりました。また、③と「①自ら進んで参加したい」「②協力を求められれば参加」を合計すると半数以上を占め、**半数以上がまちづくり活動に関して何らかの参加意向**を示しています。
- ・特に大学生については、①②③を合計すると八割を超え、他より参加意欲が高いと考えられます。
- ・一方、活動に**自ら進んで参加したい人は少数**となっており、今後活動を実行に移していく環境づくりが必要と考えられます。

4) JR新見駅の将来的なあり方について

- ・いずれのアンケートでも「②駅構内のバリアフリー化」「③バリアフリー化+南北連絡通路」「④駅の橋上化」を合計すると7割を超えており、現状からの改善を求めた結果となっています。

■ JR新見駅周辺の将来的なあり方について

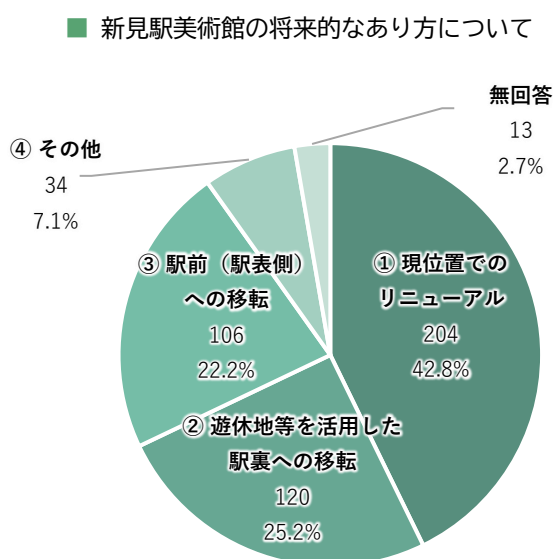


※①一般市民 1,000 人へのアンケート結果



5) 新見美術館の将来的なあり方について

- ・一般市民アンケートについては、「①現位置でのリニューアル」より「②新見駅裏への移転」と「③駅前への移転」の移転意見がわずかに上回る結果となっています。
- ・大学生、高校生アンケートについては、「①現位置でのリニューアル」が最多となり、6割を超えています。
- ・JR新見駅利用者アンケートについては、一般市民アンケートと同様に①現位置意見より②③を合計した移転意見がわずかに上回る結果となっています。一方、新見美術館利用者アンケートでは、①の現位置意見が最多で約半数を占める結果となっています。



※①一般市民1,000人へのアンケート結果

6 新見駅周辺の課題整理（求められる対応）

前章までで整理した現状や課題を踏まえ、本エリアのまちづくりにおいて求められる対応を以下に整理します。

① J R新見駅周辺の再興を目指した、駅周辺における拠点形成、にぎわいづくり

- ・本エリアでは、空き家や空き店舗、空き地の増加や居住人口の減少が進み、駅利用者の減少や商業構造の変化に影響され、地域の活力が低下しています。市の玄関口として、J R新見駅周辺のにぎわいを生み出し、拠点性を高める取組が必要です。

② バリアフリー化等を含めた、公的施設の継続的な運営

- ・J R新見駅は、1日700人以上（2019時点）が乗車する要衝駅ですが、乗り換えのための地下道はバリアフリー未対応になっています。また、新見美術館についてもバリアフリー化や、搬入路の確保、建物耐用年数による建替等の課題を抱えています。いずれの施設においても、将来にわたって運営を続けていくための方策を検討していく必要があります。

③ 駅周辺エリア内のネットワーク強化と、駅へのアクセス利便性向上

- ・J R線路の南北方向をつなぐアクセス路は限定されています。また、歩行者動線のネットワークが不十分な箇所があり、駅周辺エリア内を結ぶ、より通やすく安全なアクセス路が必要です。
- ・公共交通の充実や、レンタサイクル等モビリティの活用などにより、市内から本エリアへのアクセス利便性向上が必要です。

④ 観光客等来訪者への分かりやすい情報提供とおもてなし

- ・J R新見駅や新見美術館へ訪れた人が、周辺のスポットを周遊してもらえるように、案内板や分かりやすい情報提供が必要です。
- ・また、来訪者が立ち寄れる休憩所や、新見の食や文化、特産品を楽しんでもらえるようなおもてなしの空間が必要です。



⑤ 若者や子育て世代から高齢者までそれぞれが、気軽に集い楽しめる場の整備

- ・学生や子ども連れの親子、そして高齢者や子どもなど、誰もがそれぞれ気軽に立ち寄れ、交流でき、楽しめる場が必要です。

⑥ 駅周辺において、有意義な待ち時間を過ごせる滞留空間の確保

- ・現在のＪＲ新見駅周辺には、休憩所やベンチなど、電車やバスの待ち時間を過ごせる場所が十分に無いことから、待ち時間を有意義に過ごせ、滞留できる空間の確保が必要です。

⑦ 既存ストックを用いた、まちの新たなコンテンツづくり

- ・ＪＲ新見駅周辺には、空き家や空き地等の既存ストックが多数存在します。それらを有効に活用し、ニーズのある用途にリノベーションするなどして、まちの新たなコンテンツを作っていく必要があります。

⑧ 学生をはじめ、地域の担い手となる人材の豊富さを活かした取組

- ・本市には、新見公立大学生をはじめ、高校生からシニア層まで、多様な人材が活躍しています。本エリアのまちづくりにおいても、若者をはじめとした地域住民に積極的に参画してもらうための仕掛けづくりが必要です。

⑨ 自然資源の活用と災害対策

- ・本エリアには高梁川が流れており、またそれを楽しむための親水空間が整備されています。川や背景にある山など、駅と近接する自然資源を活かした、まちづくりの取組が必要です。
- ・昨今の豪雨被害の状況を鑑み、自然災害時を考慮した安全確保のための方策が必要です。



7 まちづくりの基本方針

(1) まちづくりテーマ・基本目標（将来像）

新見駅周辺は、交通の要衝駅であるＪＲ新見駅を中心に発展し、北側には高梁川、南側には新見美術館が立地し、市内有数の中心市街地として多くの市民に親しまれてきました。

しかし、近年の少子高齢化や人口減少に伴い、著しい活力低下が課題となっています。

本エリアにおいては、本市の玄関口として各種取組を行いながら拠点性を高めることにより、将来にわたって公的施設をはじめとしたまちの機能を維持していくことが必要です。

また、周辺の文化・自然を活かした取組を行いながら、市民や来訪者を含めた全ての世代が気軽に立ち寄れ、集いにぎわう交流の場を生み出し、新見駅周辺のまちを将来の世代へつないでいくことも求められます。

以上のことから、本エリアのまちづくりのテーマと、それを支える基本目標（将来像）を以下のように定め、まちづくりを推進していきます。

〈まちづくりのテーマ〉

みんなにやさしい みんながたのしい
みらいにつなげるまちづくり

〈3つの基本目標（将来像）〉

未来につながる
新見のゲートウェイ

多様な感性の交流が
生まれ続ける場

みんなで住み継ぐ
活気あふれるまち



(2) まちづくり方針（方向性）

前項で示したまちづくりの基本目標（将来像）を実現するため、まちづくりの方針（方向性）を以下の5つに定めます。

方針1 市の玄関口としてにぎわい・交流を創出する

- 1-1. 誰もが使いやすい駅への整備促進
- 1-2. 駅を中心としたエリアへのアクセス性を向上し、駅の拠点性を高める
- 1-3. 新見を感じるおもてなし環境づくり
- 1-4. 観光周遊拠点としての機能強化

方針2 みんなで使い続けられる心地よい居場所づくり

- 2-1. 歩いて楽しい屋外空間づくり
- 2-2. みんなが集える拠点づくり

方針3 自然の中で豊かな感性を育む

- 3-1. 芸術を取り入れたまちづくり
- 3-2. 高梁川を活かすまちづくり
- 3-3. 子育て環境の充実

方針4 地域の中の様々な活力をつなぐ

- 4-1. 若い力を活かすまちづくり
- 4-2. 既存ストックを有効に活用するまちづくり

方針5 暮らしの基盤を整える

- 5-1. 安心・安全な駅周辺エリアの形成



方針1

市の玄関口としてにぎわい・交流を創出する

1-1. 誰もが使いやすい駅への整備促進

J R新見駅は、芸備線、姫新線、伯備線の3線が走る要衝駅であり、古くから山陰山陽の中間駅として機能してきました。今後も地域の核として、そのポテンシャルを維持していくことが望まれています。

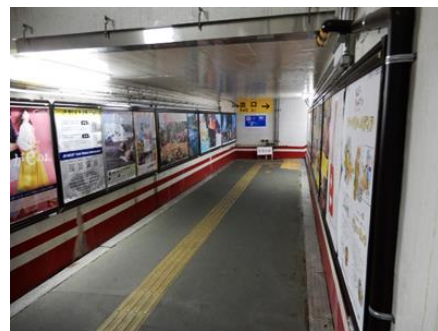
一方、駅舎については老朽化が進み、乗り換えのための地下道はバリアフリー未対応となっています。

市の玄関口として、子どもから高齢者まで、誰もが移動しやすい環境を整えるため、駅そのもののバリアフリー化や橋上化など、移動環境の改善に取り組む必要があります。

また、線路によって分断された駅南北のネットワークをつなぎ、駅周辺エリアの一体的なにぎわい形成を目指すことも求められます。



新見駅全景



新見駅地下道

1-2. 駅を中心としたエリアへのアクセス性を向上し、駅の拠点性を高める

市内の各施設や拠点から駅周辺までの公共交通は便数や運行時間が限定されており、駅周辺へアクセスしにくい状況にあります。駅の拠点性を高めるため、レンタサイクルを含む多様なモビリティによる公共交通の充実等により、駅を中心としたエリアへのアクセス性を向上させていきます。



レンタサイクルポートのイメージ



1-3. 新見を感じるおもてなし環境づくり

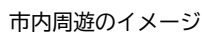
A close-up photograph showing a bottle of red wine being poured into two glasses. The wine is a deep red color and is captured mid-pour, creating a dynamic splash in the glasses. In the background, there is a plate with several sausages, suggesting a meal or social gathering. The lighting is warm and focused on the wine, creating a cozy and inviting atmosphere.

食を活かしたおもてなしのイメージ

1-4. 観光周遊拠点としての機能強化

An illustration of a man and a woman standing in front of a large digital display. The man, on the left, is wearing a light blue long-sleeved shirt and dark blue trousers. He is pointing at a list on the right side of the display. The woman, on the right, is wearing a yellow long-sleeved shirt and a pink patterned skirt. The display itself is a large, dark grey rectangular screen on wheels. The left half of the screen shows a map with blue lines representing roads or rivers, and various colored dots (blue, green, yellow, pink, orange) indicating different locations or data points. The right half of the screen shows a list of text, with the man's finger pointing to one of the entries.

分かりやすい情報発信



方針2

みんなで使い続けられる心地よい居場所づくり

2-1. 歩いて楽しい屋外空間づくり

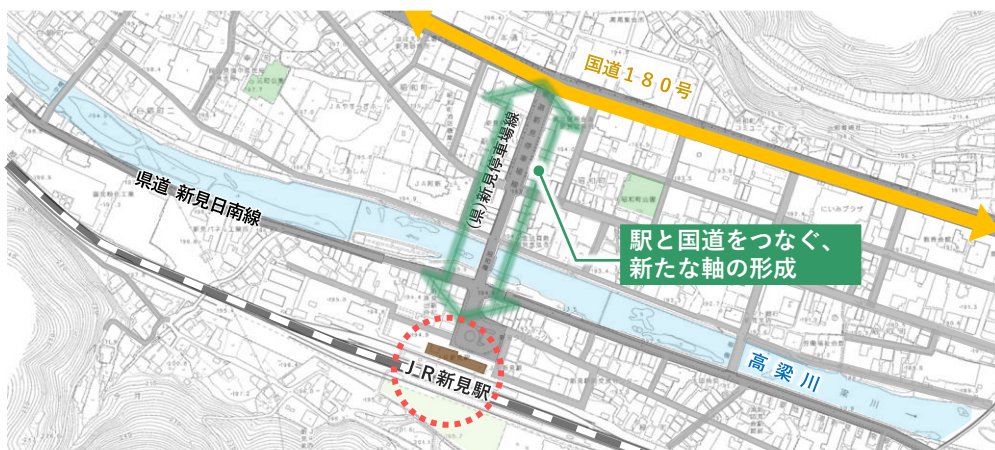
J R新見駅の北側には、国道 180 号が東西方向に走っており、市民の生活軸となっています。

J R新見駅周辺のにぎわい形成に寄与すべく、国道 180 号から J R新見駅を結ぶ新たな軸を形成し、メインストリートとして歩いて楽しい屋外空間づくりを進めます。

また駅を中心に、周遊したくなる仕掛けづくりに取り組んでいきます。



にぎわいある歩行空間のイメージ
(上：豊島区、下：岡山市)



J R新見駅と国道 180 号を結ぶ軸のイメージ

2-2. みんなが集える拠点づくり

現在の J R新見駅周辺には、市民や学生が気軽に立ち寄れるスポットが限られており、バスや電車の待ち時間を有意義に過ごせる空間が乏しいことが、駅周辺の課題意見として挙げられています。

多機能広場や勉強・仕事等が行えるスペースの整備、定期的な催しの開催等を行い、若者から高齢者までそれぞれが集い楽しめる居場所づくりに取り組んでいきます。



勉強・仕事ができるフリースペース(イメージ)



気軽に立ち寄れる屋外空間(豊島区)

方針3

自然の中で豊かな感性を育む

3-1. 芸術を取り入れたまちづくり

J R新見駅周辺エリアの南部には新見美術館が立地しており、市内の重要な文化的施設となっています。本エリアのまちづくりにおいても、芸術・文化の核となる美術館と連携しながら、にぎわい形成につながる各種取組を進めていきます。



新見美術館



芸術をテーマとした催しのイメージ

3-2. 高梁川を活かすまちづくり

本エリアの中央部には、高梁川が流れています。甌穴河床を望むことができる親水公園も整備されており、地域の憩いの場となっています。

高梁川での催し開催や、川への眺望を楽しめるスペースを確保し、高梁川を様々視点から楽しめるまちづくりを推進していきます。



川を楽しめる屋外空間(広島市)

3-3. 子育て環境の充実

本市内において、親子で楽しめる施設の設置を望む声が多数あります。

駅を利用する子育て世代が使いやすく、また子ども自身が楽しめる駅周辺エリアを目指すまちづくりを進めていきます。

また、本市においては、新見公立大学との連携協定により、児童福祉分野において大学と連携した様々な取組が行われています。本エリアにおいても大学と連携し、取組を進めていきます。



子どもが楽しめる空間のイメージ

方針4

地域の中の様々な活力をつなぐ

4-1. 若い力を活かすまちづくり

本市には、新見公立大学と2つの高等学校があり、学生のまちづくりへの積極的な参画が期待されています。

若者の感性を活かした情報発信や、新たなまちづくり活動の企画など、様々な局面で若者のまちづくりへの参加機会を設ける取組を推進していきます。



学生との協働によるまちづくりのイメージ

4-2. 既存ストックを有効に活用するまちづくり

J R新見駅周辺には、空き家や空き地、空き店舗等の既存ストックが多数存在します。それらを活用し、新規店舗やニーズのある用途へのリニューアルを推進していきます。

また、既存の商店等と連携しながら、新規店舗等を活かした新たな取組を行っていきます。



空き家を改装した店舗
(尾道市 はちみつ専門店)



チャレンジショップ (イメージ)

方針5 暮らしの基盤を整える

5-1. 安心・安全な駅周辺エリアの形成

昨今の豪雨災害の豪雨災害により、J R新見駅周辺においても土石流や床上浸水の被害が発生しました。

今後も様々な自然災害が起こる可能性がある中、本エリアにおいては様々な来訪者が訪れる地域の拠点となるエリアとして、防災、減災に留意したまちづくりを推進していく必要があります。

オープンスペースや道路の整備、拠点施設の防災機能の強化等により、安心・安全な駅周辺エリアの形成を目指していきます。



豪雨災害の被害状況

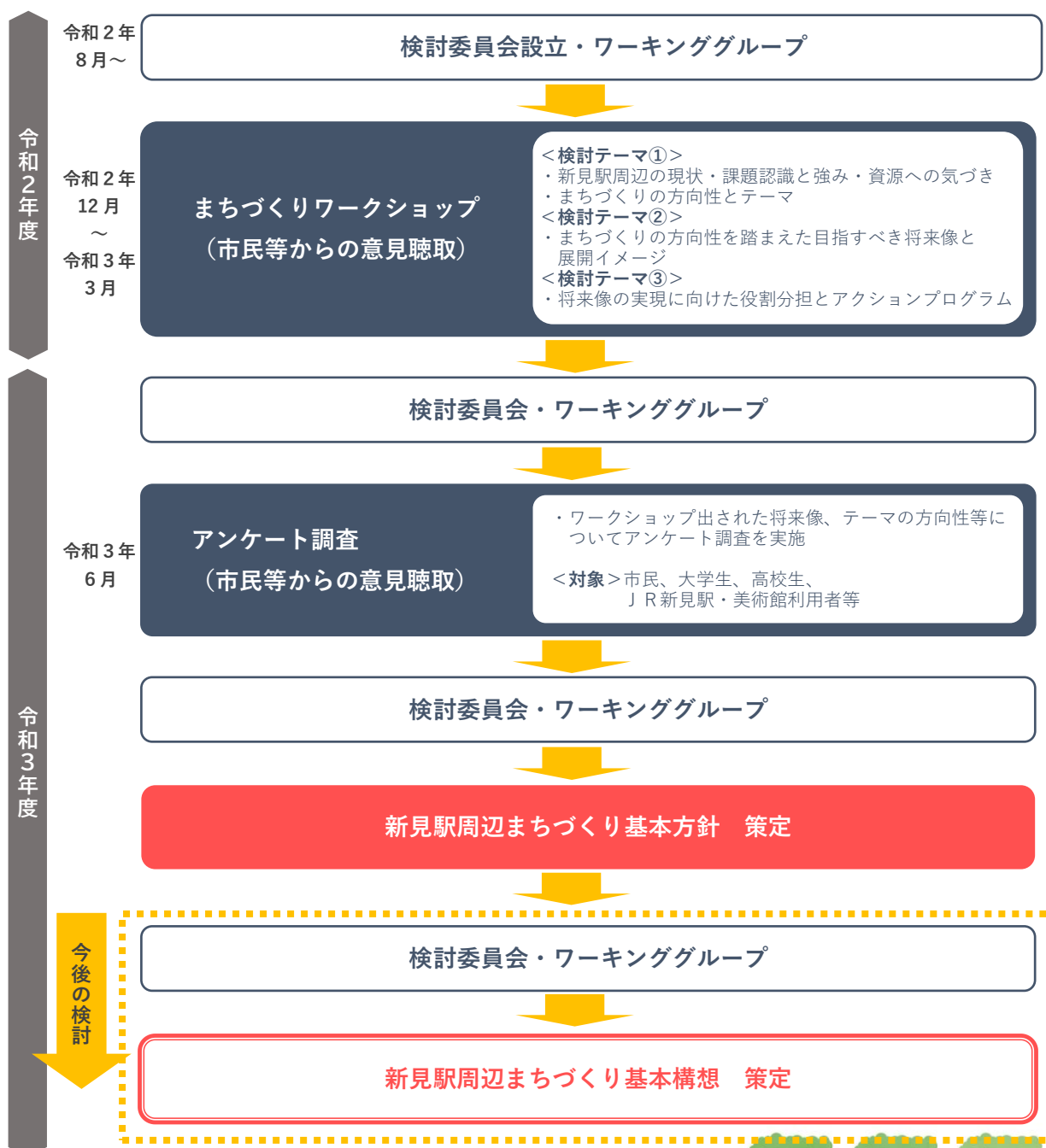


水路の復旧整備箇所

今後の流れ（新見駅周辺まちづくり基本構想策定予定）

- ・令和2年8月に新見駅周辺まちづくり検討委員会を設立し、ワーキンググループを中心にして、ワークショップ、アンケート調査を実施するなどして「新見駅周辺まちづくり基本方針案」を策定しました。
- ・今後、新見駅周辺まちづくり基本方針をもとに、ワーキンググループ・検討委員会において、「新見駅周辺まちづくり基本構想」を策定していく予定です。

■ 今後の検討の流れ（イメージ）



新見駅周辺まちづくり基本方針（案）

～みんなにやさしい みんながたのしい みらいにつなげるまちづくり～

〔 資 料 編 〕

新見駅周辺まちづくりに関するアンケート調査結果

【アンケート調査概要】

1. 調査主体

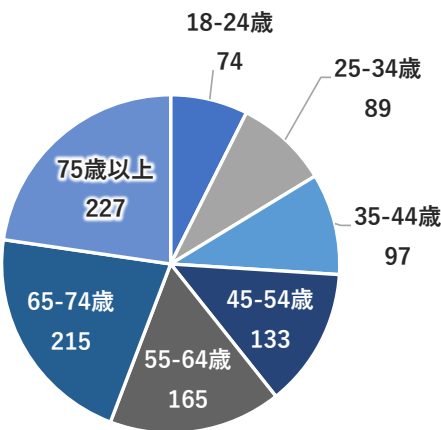
- ・新見市建設部都市整備課

2. 調査目的

- ・新見駅周辺のまちづくりにおける、基本構想作成に向けた利用者等の意向反映のため

3. 調査対象

- ①18 歳以上の市民 1,000 人
※新見市人口を基にした世代別配分調整あり（右図参照）
- ②新見公立大学生 650 人（全学生）
- ③新見市内全高校生 610 人
（岡山県立新見高等学校、岡山県共生高等学校）
- ④施設利用者
（JR 新見駅、新見美術館、新見市役所、大佐支局、神郷支局、哲多支局、哲西支局）



【①年齢区分別配布数】

4. 調査時期

- ・令和 3 年 6 月

5. 調査方法・回収数

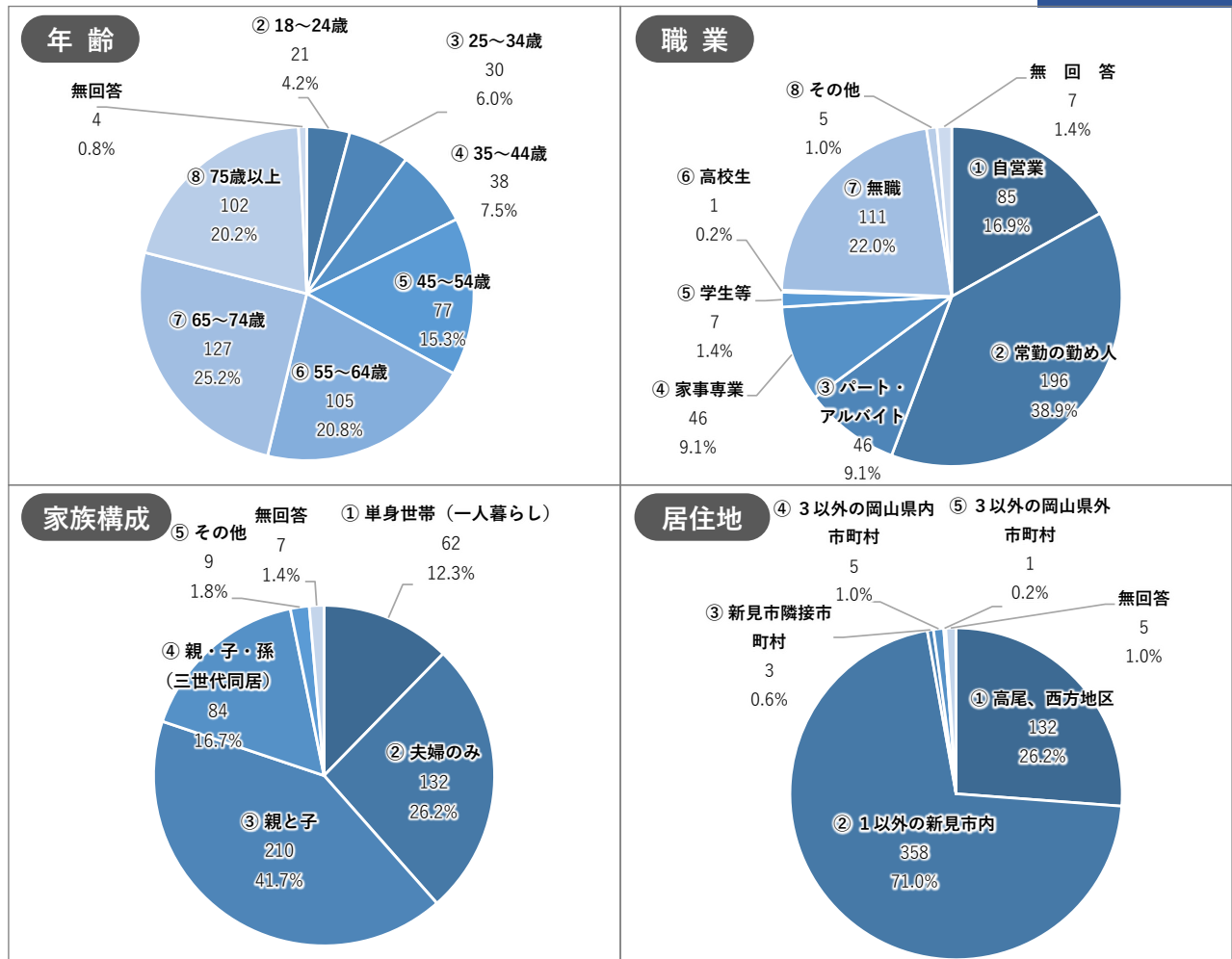
対 象	調査方法	回収数（回収率）
①一般市民（1,000 人）	・ 郵送による配布・回収	477（47.7％）
②新見公立大学生	・ WEB による配信・回収	536（82.5％）
③高校生	・ 学校への一括配布・回収	591（96.9％）
④施設利用者	・ 常設アンケートの設置による配布、現場回収 ・ Web による配信・回収	251（－）

※次頁以降の集計では、④施設利用者アンケートのうち新見市役所（2）、大佐支局（13）、神郷支局（0）、哲多支局（4）、哲西支局（8）の計 27 名分を①一般市民アンケートに加えて集計している。

【アンケート集計結果】

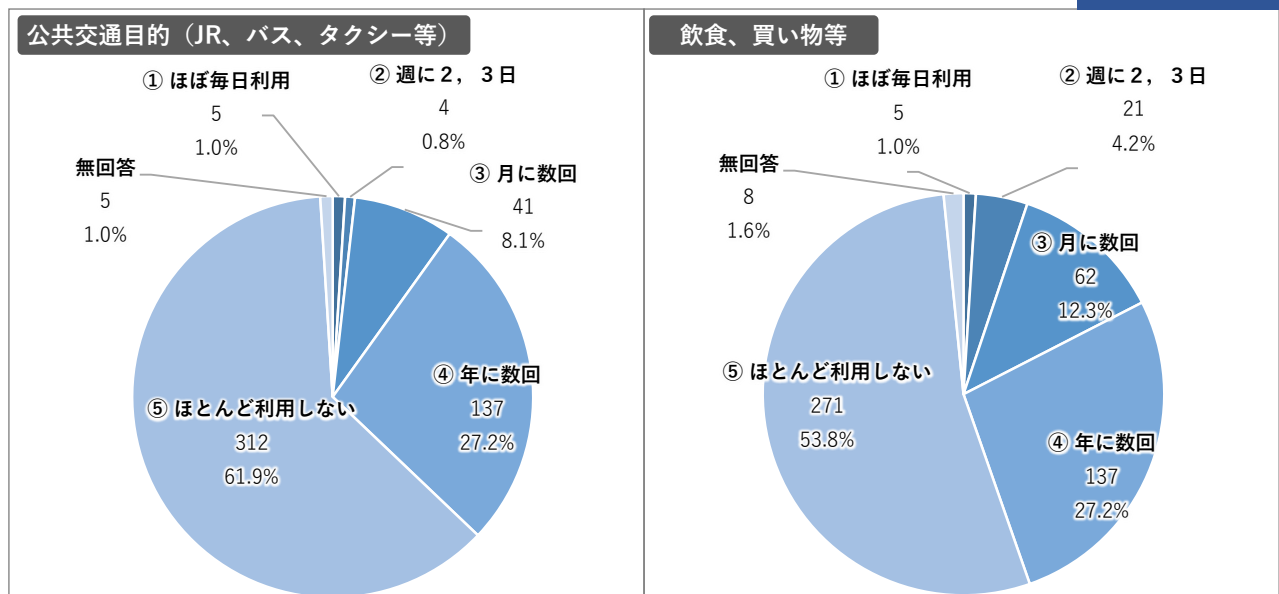
(1) 回答者の基本属性について ①一般市民（新見市役所、各支局回収分含む）

一般市民



(2) 駅周辺の目的別利用頻度 ①一般市民（新見市役所、各支局回収分含む）

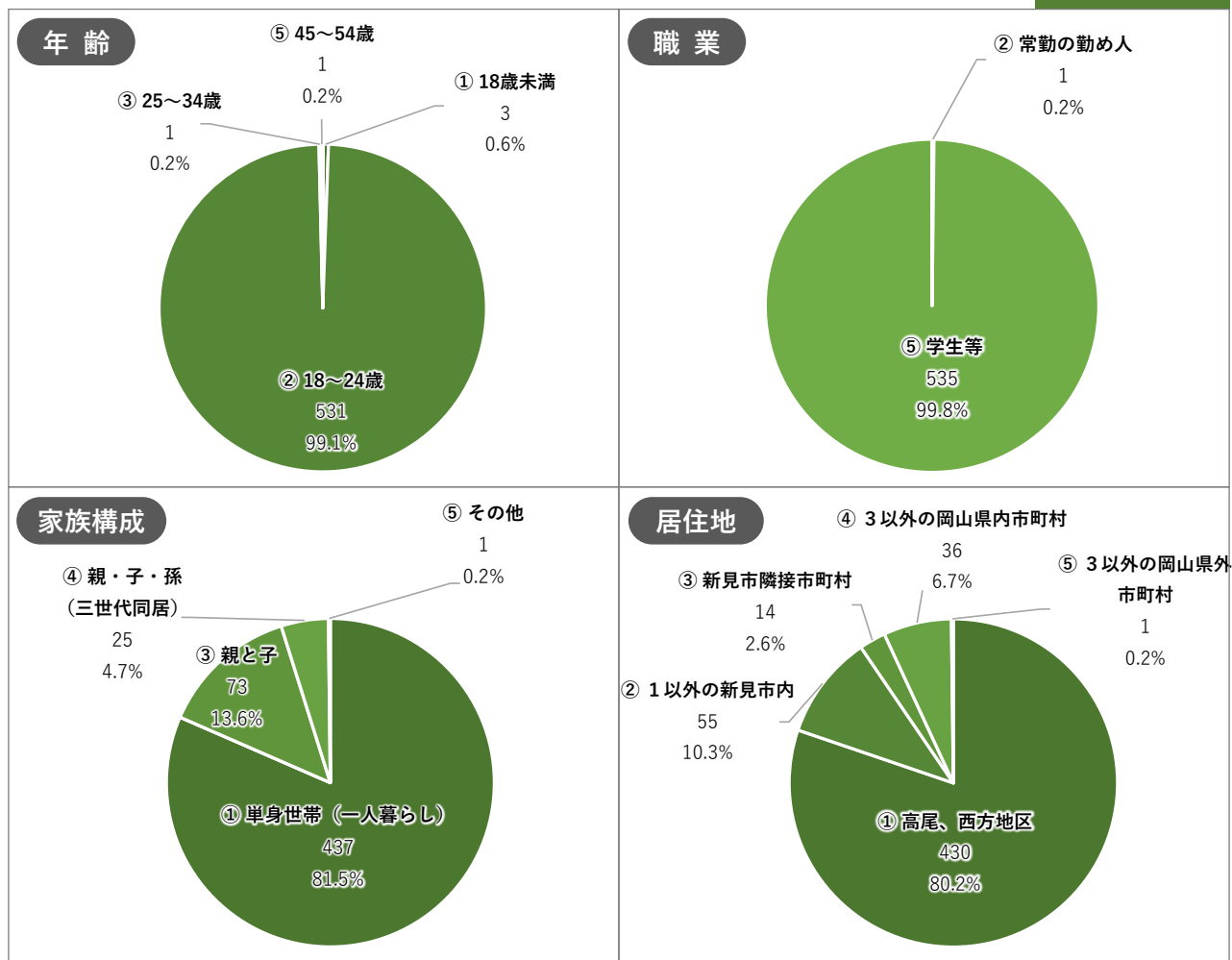
一般市民



- ・公共交通、飲食・買い物等の利用について「⑤ほとんど利用しない」が半数以上となっており、通勤等では、自家用車利用が多いことが推測される。
- ・年に数回以上、公共交通、飲食・買い物等の目的で駅を利用している人が4割程度いる。

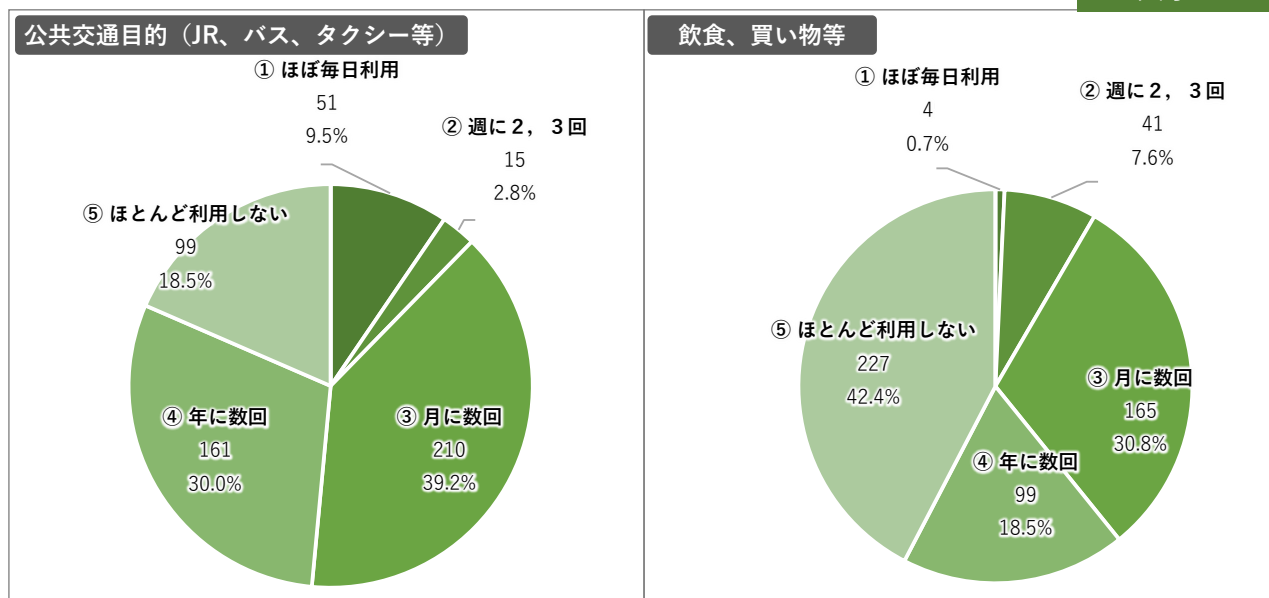
(1) 回答者の基本属性について ②大学生

大学生



(2) 駅周辺の目的別利用頻度 ②大学生

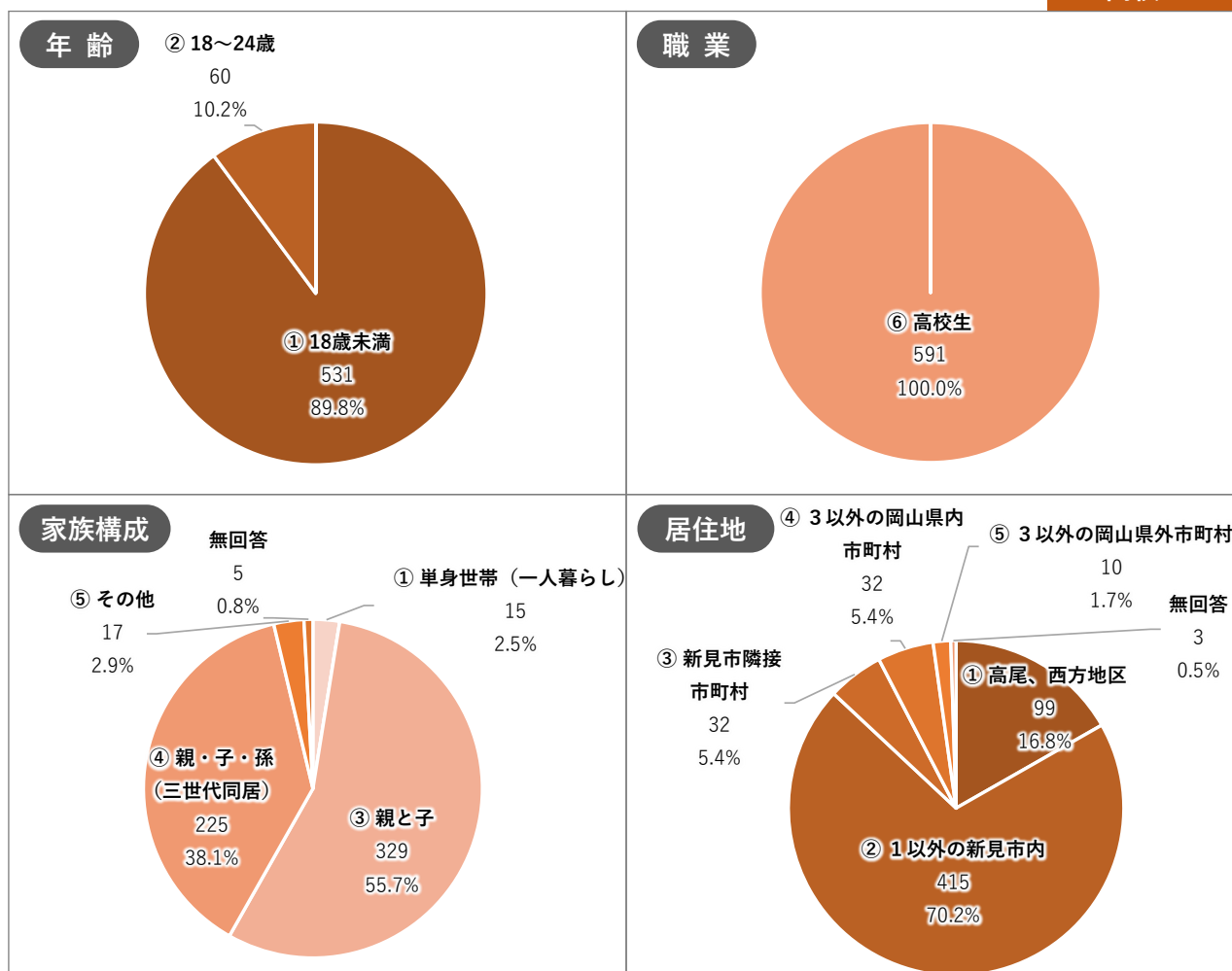
大学生



- ・公共交通目的の駅周辺の利用頻度については、「③月に数回」が最も多く39.2%、続いて「④年に数回」が30%を占める。「①ほぼ毎日」という回答が約1割を占める一方、「⑤ほとんど利用しない」が18.5%を占めている。飲食・買い物等を目的とした駅周辺の利用頻度は、「⑤ほとんど利用しない」が最多で42.4%を占めている。
- ・一般市民と比較すると公共交通、飲食・買い物等の利用頻度とも高くなっている。

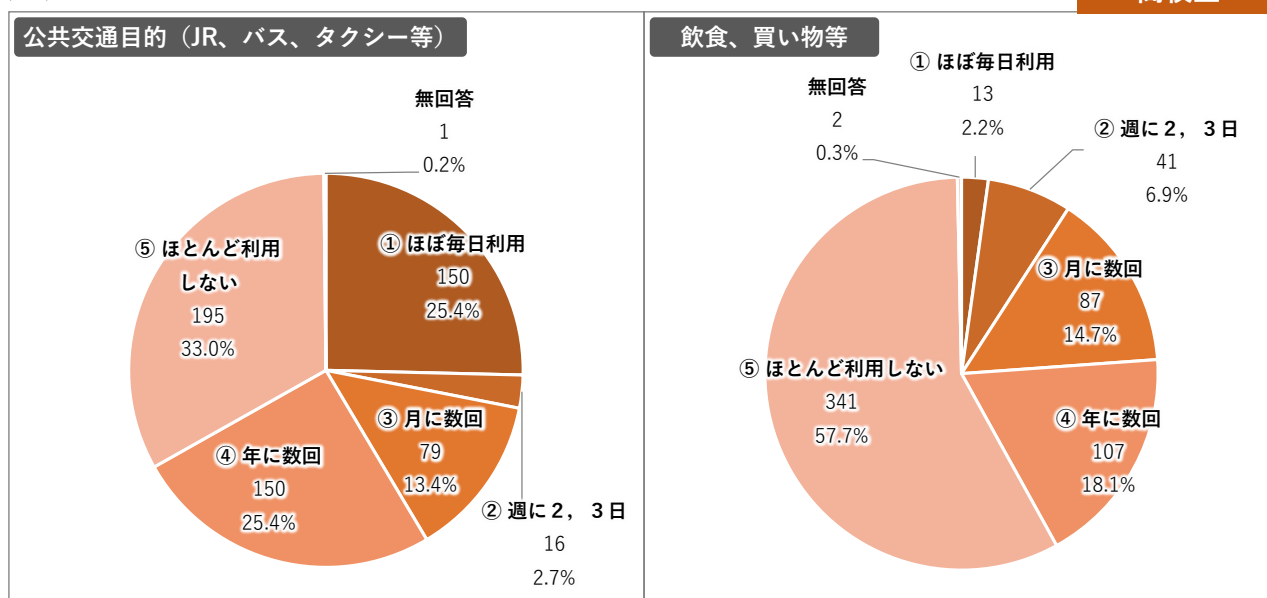
(1) 回答者の基本属性について ③高校生

高校生



(2) 駅周辺の目的別利用頻度 ③高校生

高校生

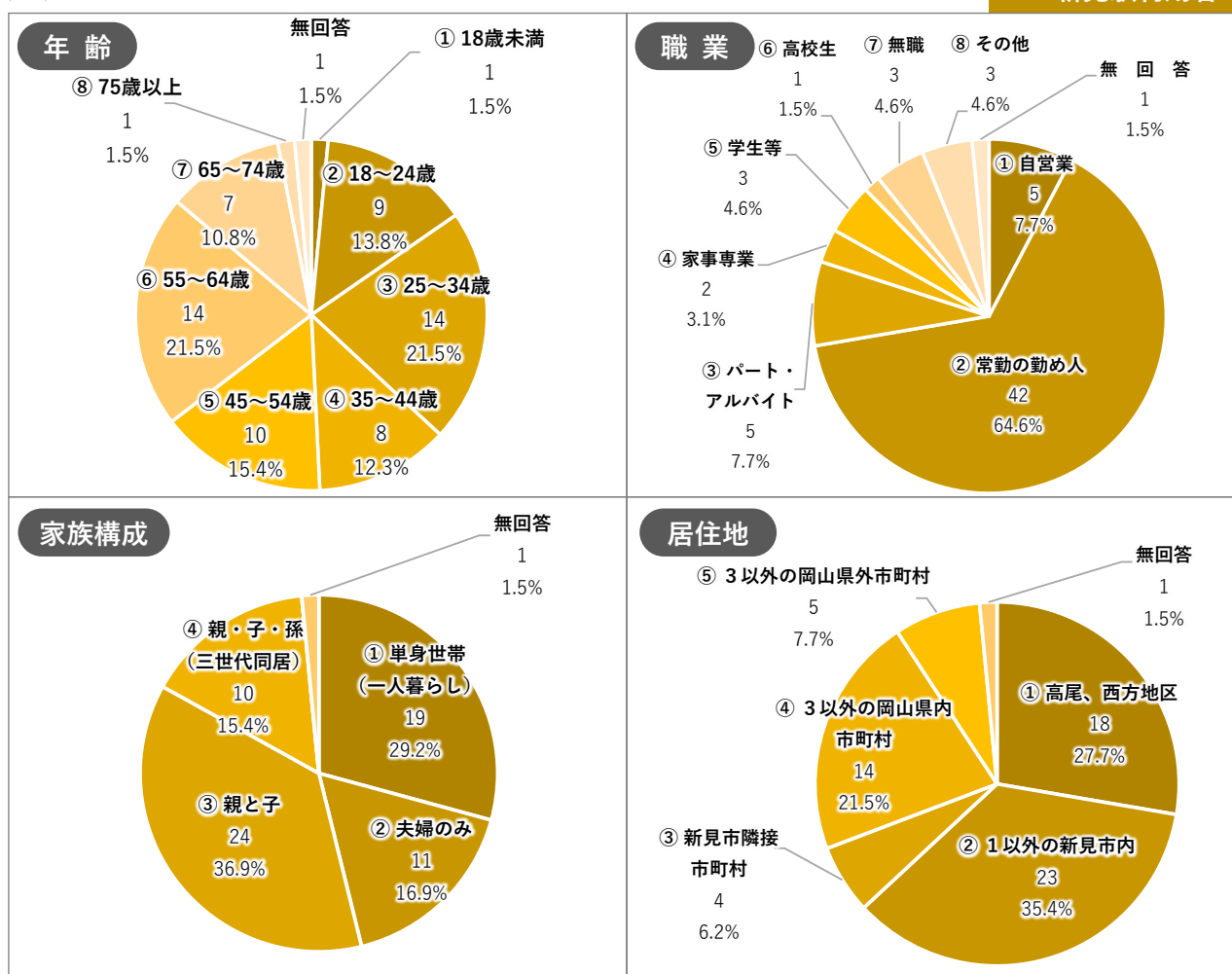


・公共交通目的の駅周辺の利用頻度については、「①ほぼ毎日」が25.4%を占める一方、「⑤ほとんど利用しない」が最多の33%となっている。飲食・買い物等を目的とした駅周辺の利用頻度は、「⑤ほとんど利用しない」が最多で57.7%を占め、「④年に数回」が18.1%を占める。

・一般市民と比較すると公共交通利用は高く、通学での利用が推測される。飲食・買い物等の利用頻度は、一般市民と同様に低い。

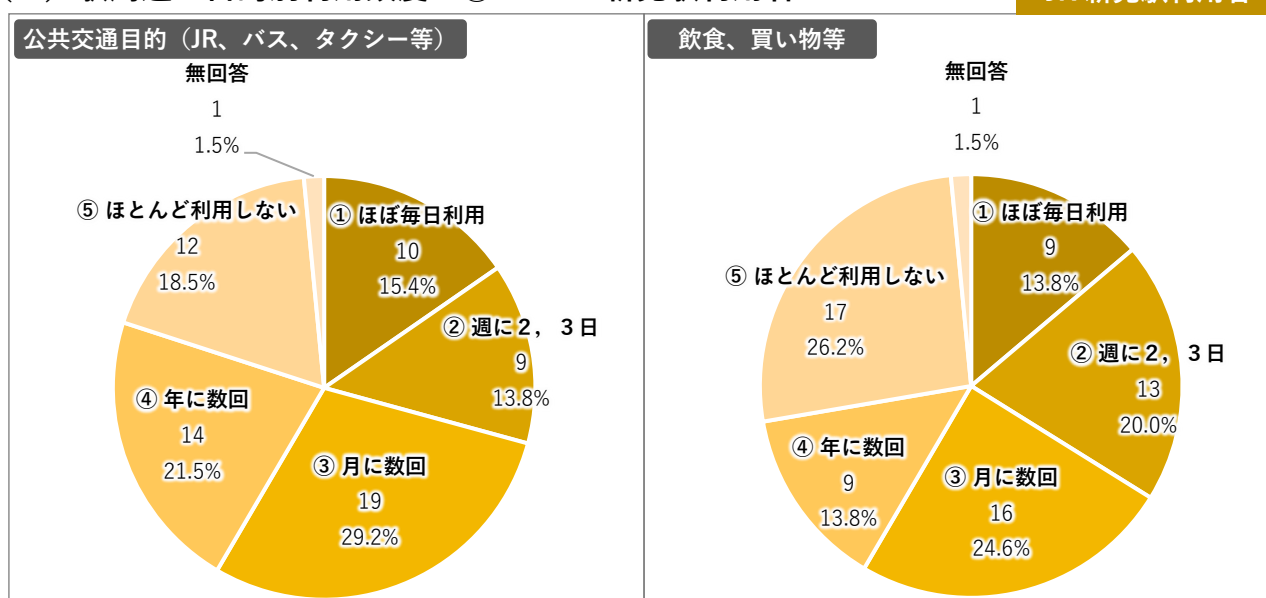
(1) 回答者の基本属性について ④-A：JR 新見駅利用者

JR 新見駅利用者



(2) 駅周辺の目的別利用頻度 ④-A：JR 新見駅利用者

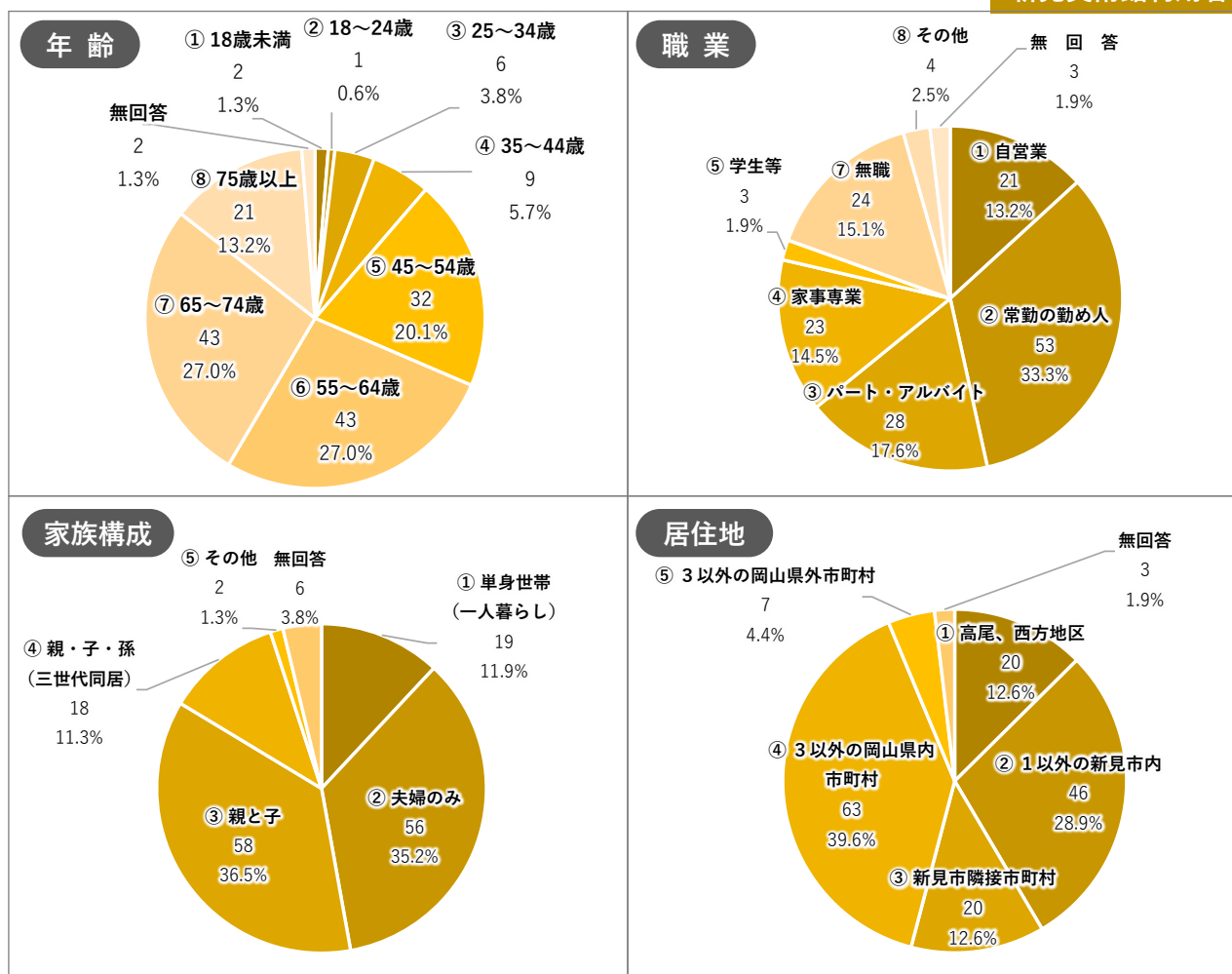
JR 新見駅利用者



- ・公共交通目的での駅周辺の利用頻度は、「③月に数回」が最多となっている。飲食・買い物を目的とした駅周辺の利用頻度は、「⑤ほとんど利用しない」が最多であるものの、「③月に数回」と僅差となっている。
- ・いずれの目的においても、月に数回以上駅を利用する回答者が半数以上を占める。

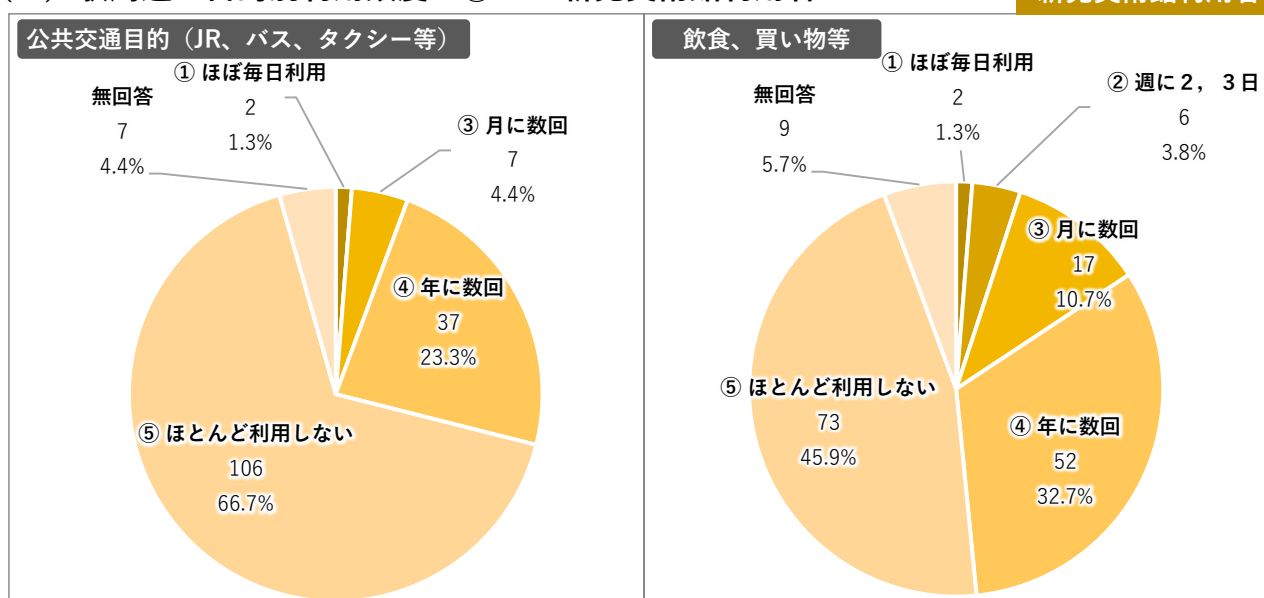
(1) 回答者の基本属性について ④-B：新見美術館利用者

新見美術館利用者



(2) 駅周辺の目的別利用頻度 ④-B：新見美術館利用者

新見美術館利用者

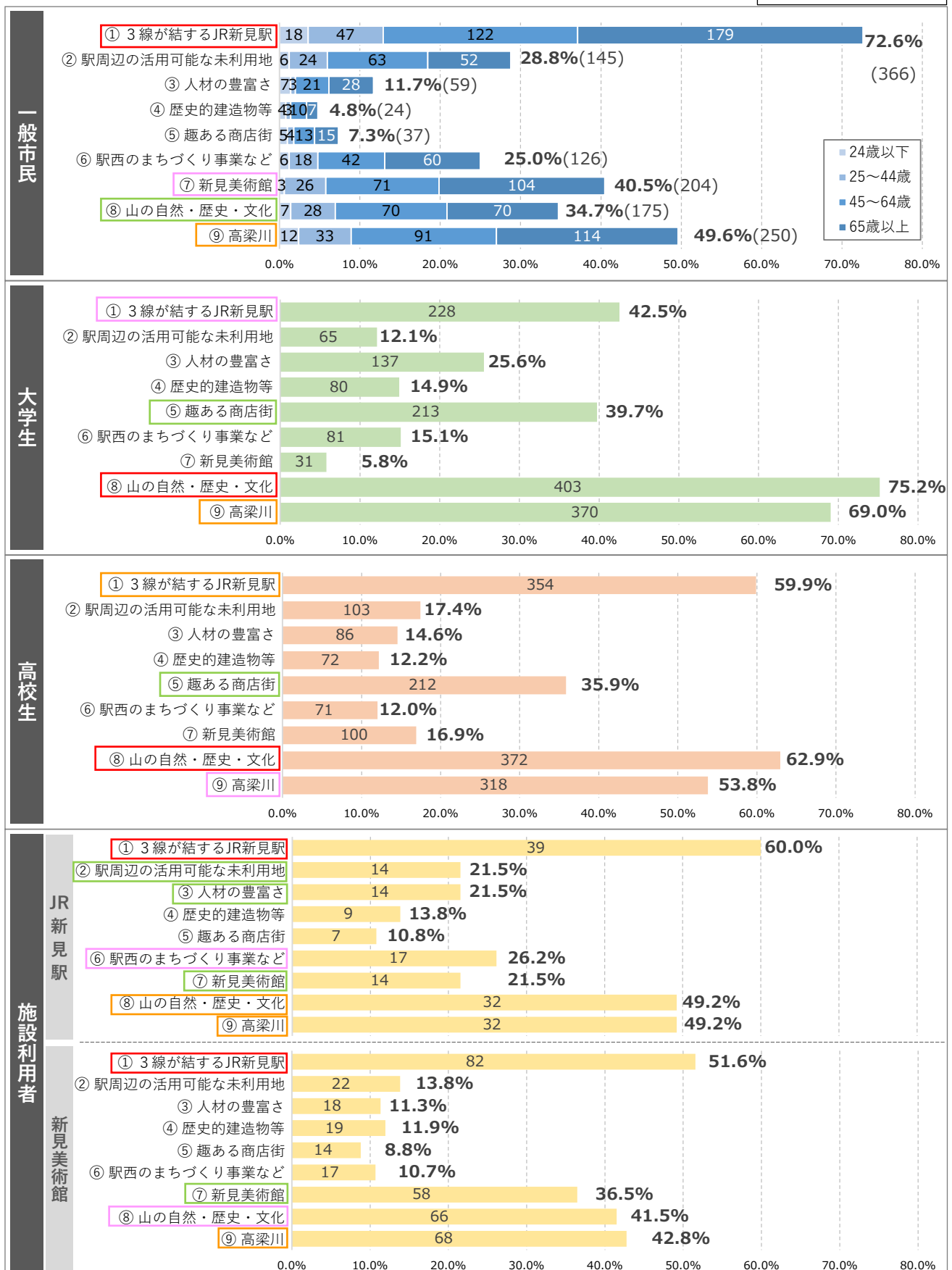


- ・ いずれも「ほとんど利用しない」が半数以上で最多となっている。
- ・ 一方、年に数回以上駅周辺を利用するという回答は、公共交通目的では約3割、飲食・買い物等目的では約半数を占める。

(3) ワークショップで出た意見への賛同性

・問3：現在の新見駅周辺の魅力・強み・資源について、あなたが最も良いと思う点はどこですか。
(3つ選択)

1位 2位
3位 4位

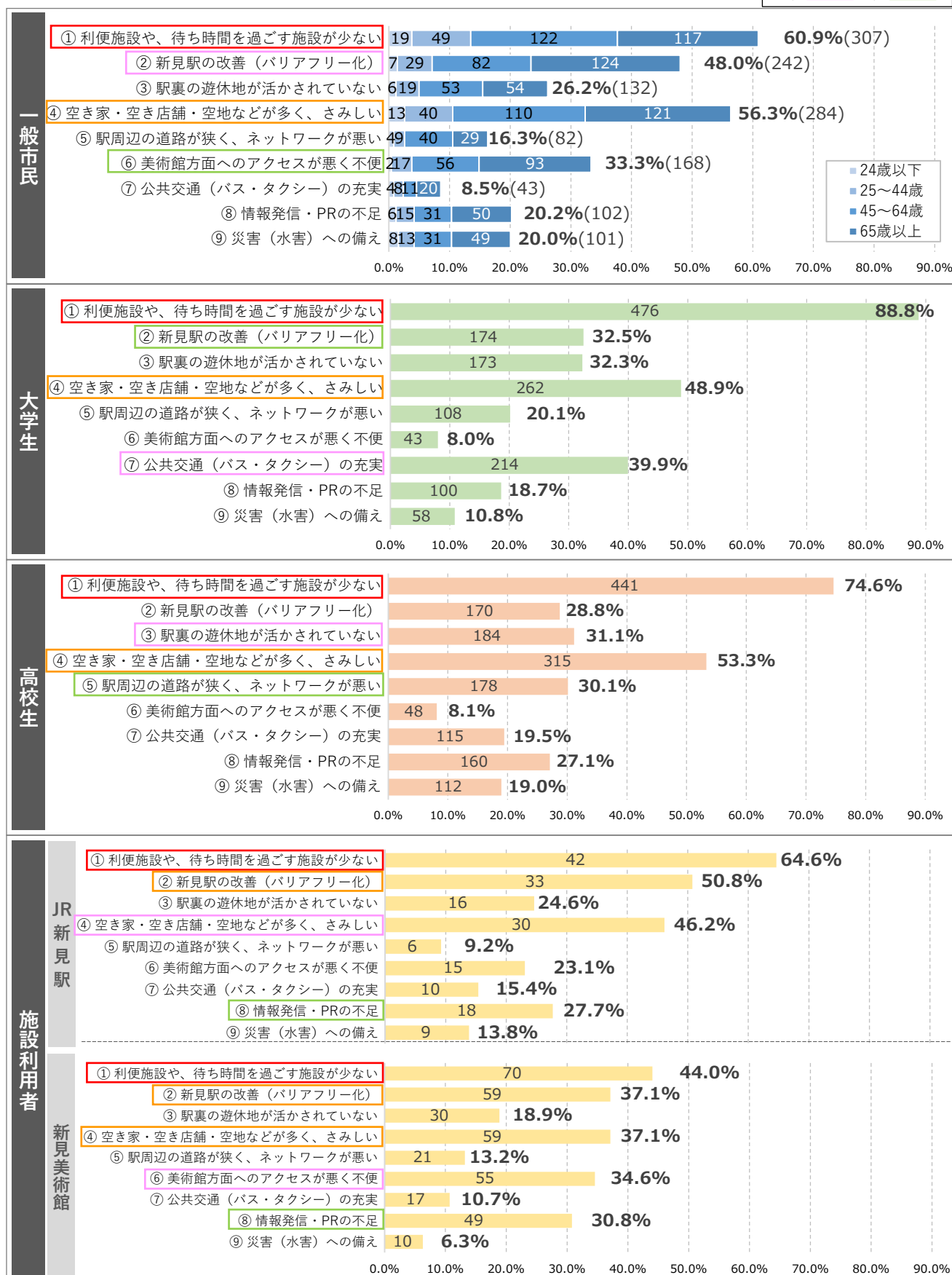


・いずれのアンケートでも「①新見駅」「⑧山の自然・歴史・文化」「⑨高梁川」の選択率が高くなっている。

・「⑦新見美術館」について、一般市民、施設利用者では選択率が高くなっているが、大学生、高校生では、選択率が比較的低い。

・問4：現在の新見駅周辺の課題点について、あなたが最も改善した方が良いと思う点は何ですか。
(3つ選択)

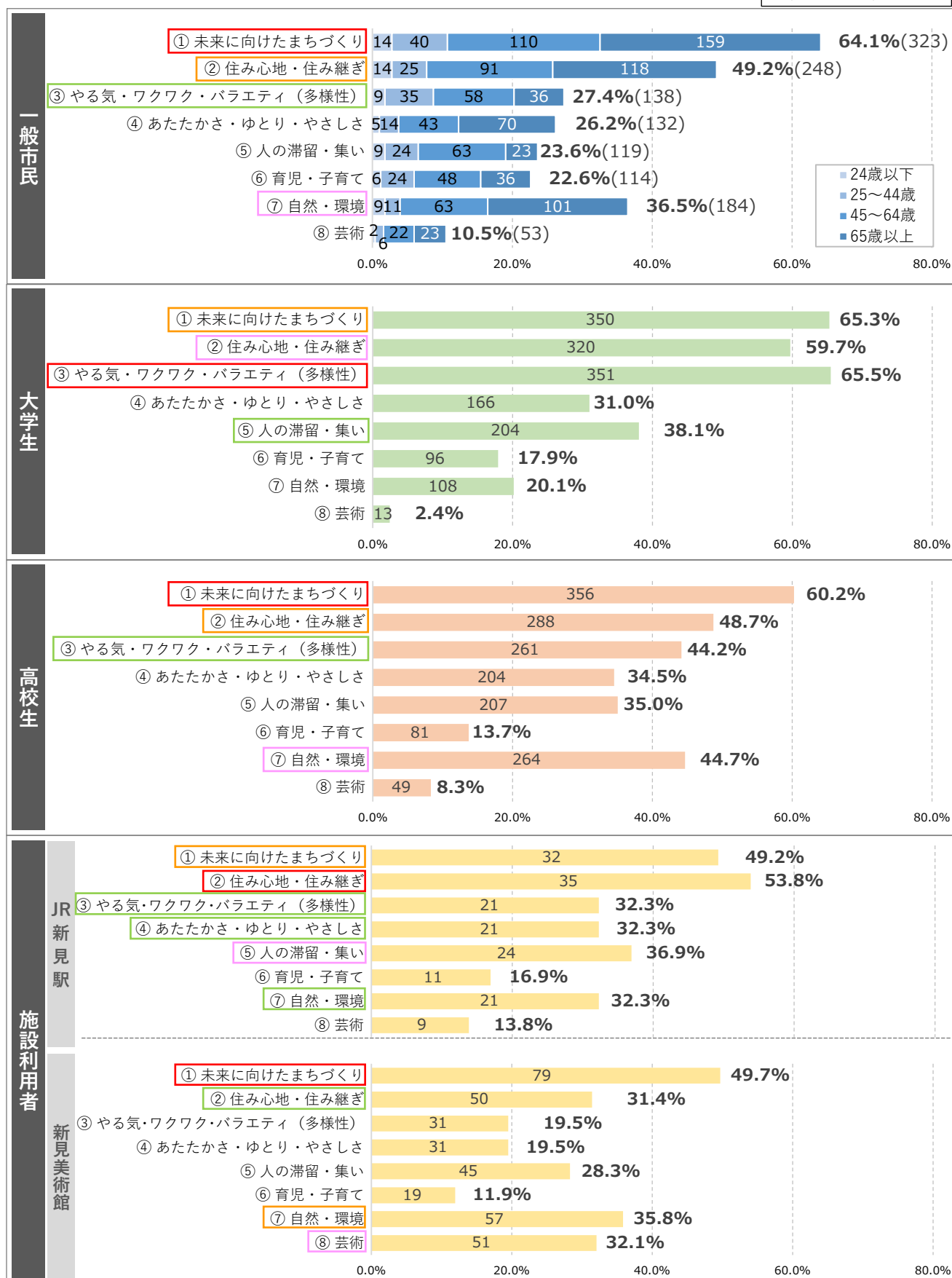
1位 2位
3位 4位



- ・いずれのアンケートでも「①利便施設や、待ち時間を過ごす施設が少ない」が最多となっている。その他、共通して「④空き家・空き店舗・空地等が多くさみしい」「②新見駅の改善（バリアフリー化）」の選択率が高くなっているおり、課題と考えられている。
- ・「⑥美術館方面へのアクセスが悪い」については、一般市民、新見美術館利用者アンケートでは選択率が高く課題と考えられているが、大学生、高校生アンケートでは課題と考えられていない。
- ・大学生は、公共交通の充実の選択率が高く課題と考えられている。

・問5：将来の新見駅周辺の姿として、望ましいと思うキーワードを選択してください。
(3つ選択)

1位 2位 3位 4位

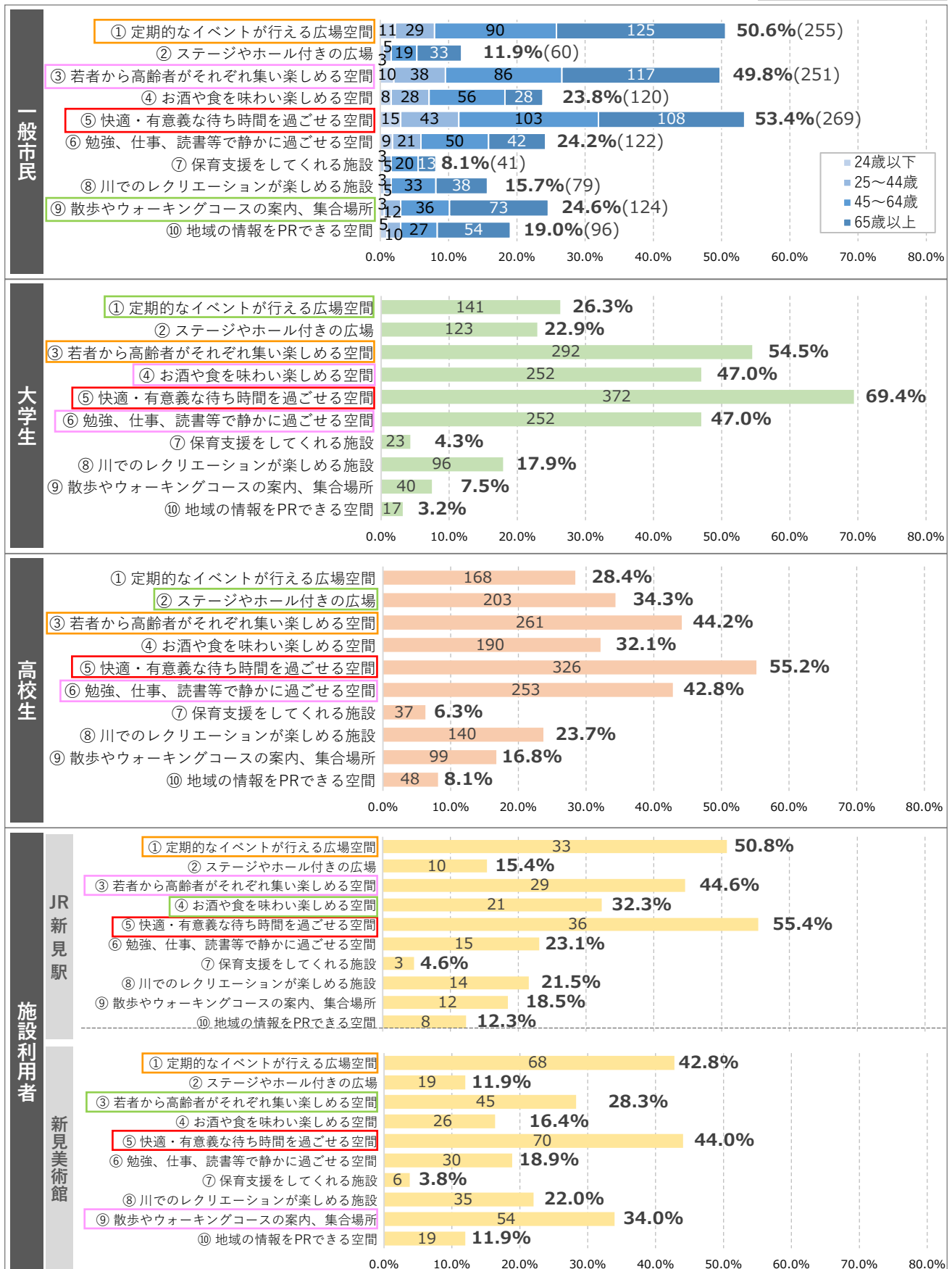


・大学生アンケートでは、「③やる気・ワクワク・バラエティ」が最多となっている。新見美術館利用者アンケートでは、1位が「①未来に向けたまちづくり」、2位が「⑦自然・環境」、3位が「⑧芸術」となっている。
・その他アンケートでは、「①未来に向けたまちづくり」と「②住み心地・住み継ぎ」が1位と2位になっており、いずれも将来へつなげるキーワードの選択率が高くなっている。

・問6：新見駅周辺において、どんな空間や施設があったら良いと思いますか。

(3つ選択)

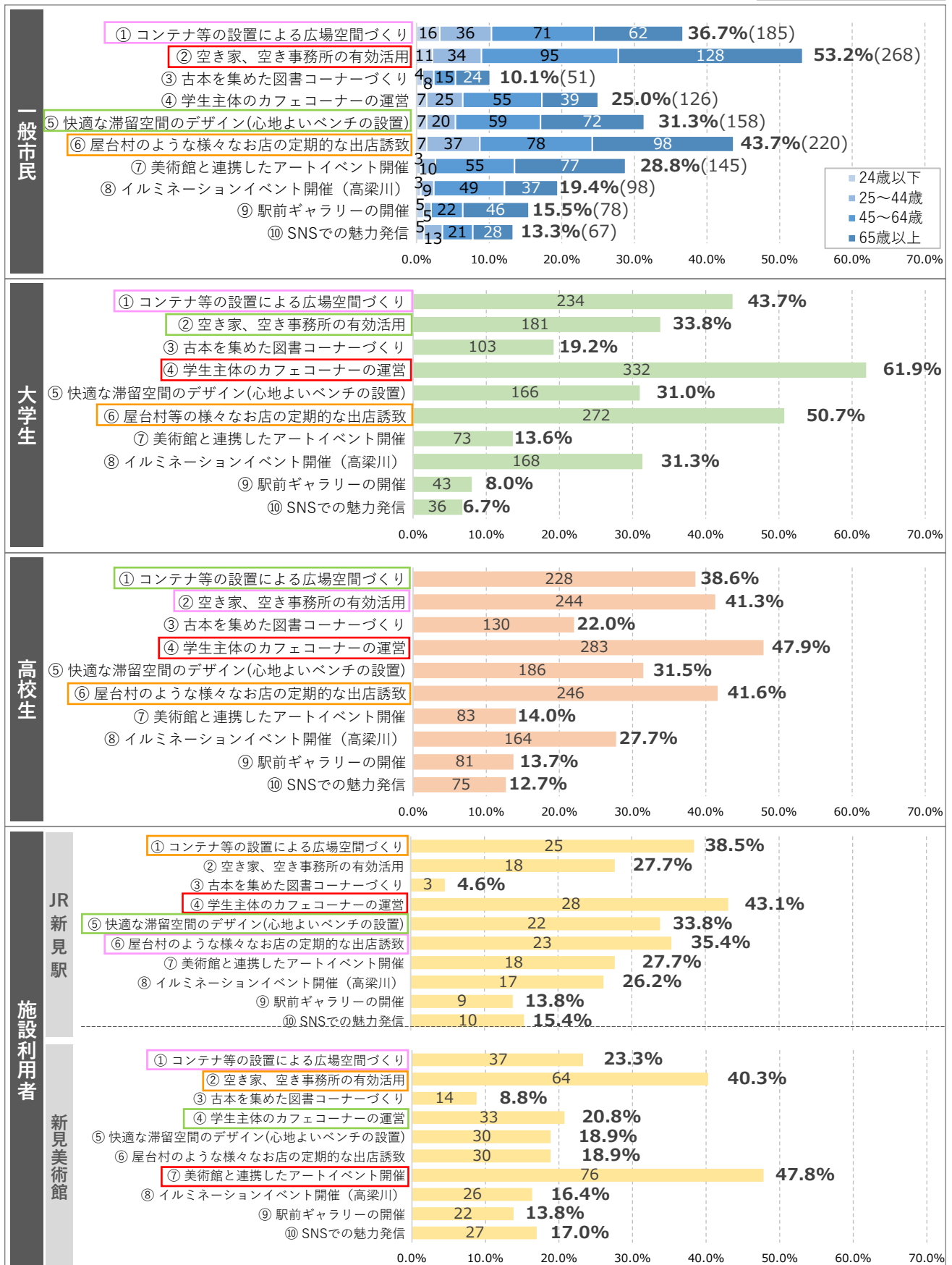
1位 2位 3位 4位



- ・全てのアンケートで「⑤待ち時間が過ごせる空間」が最多であり、4割以上が選択している。また、「③若者から高齢者まで集い楽しめる空間」、「①定期的なイベントが行える広場空間」の選択率が高く求められる空間や施設と考えられている。
- ・大学生、高校生では、「⑥勉強等で静かに過ごせる空間」の選択率が高く、求められる空間や施設と考えられている。

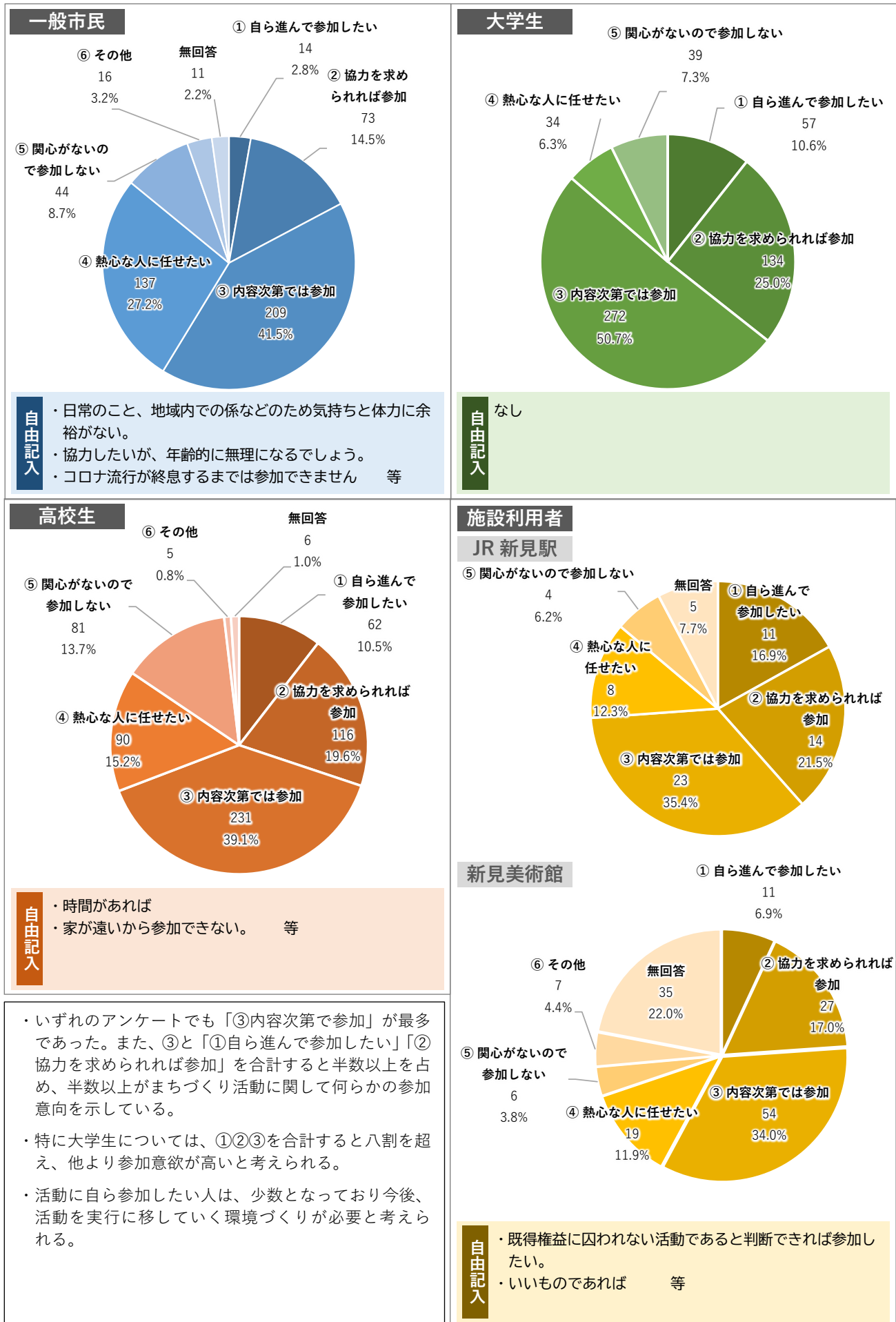
・問7：ワークショップで出された、学生や民間事業者が参画する取組アイデアについて、特に魅力的だと思うものはどれですか。（3つ選択）

1位 2位 3位 4位



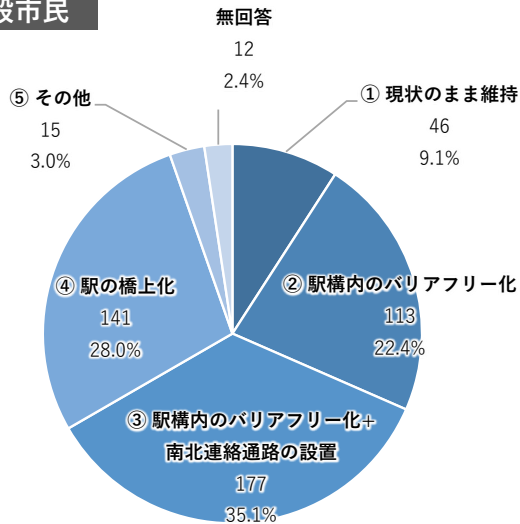
- ・「②空き家、空き事務所の有効活用」「①コンテナ等の設置による広場空間づくり」の選択率が高くなっている。
- ・新見美術館利用者では、「⑦美術館と連携したアートイベント開催」が最多となっている。
- ・新見美術館利用者を除き、「⑥屋台村のようなお店の定期的な出店誘致」の選択率が高く、大学生、高校生は「④学生主体のカフェコーナーの運営」の選択率が高くなっている。

・問 8：駅周辺での賑わい・交流創出のための活動について、参加してみたいと思いますか。



・問9：JR 新見駅の将来的なあり方について、あなたが望ましいと思うものをお選びください。

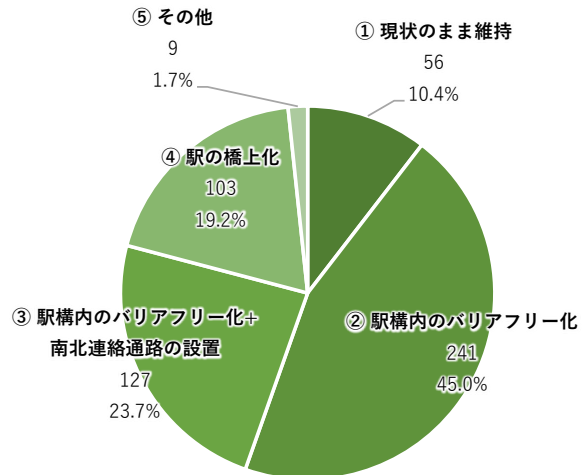
一般市民



自由記入

- ・エレベーターの設置、駅のトイレ洋式に替える。
- ・駐車場の増設と駐車場への道路の拡張、送迎者のスペースの確保
- ・高梁駅なみに、増築、改築を行って欲しい 等

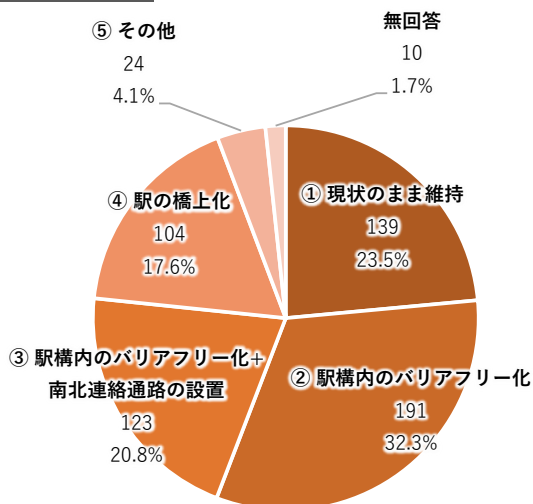
大学生



自由記入

- ・本数の増加
- ・店を入れる、マクドナルドを作る
- ・らくるっとと電車の時間を合わせる
- ・とくとくきっぷの復活 等

高校生

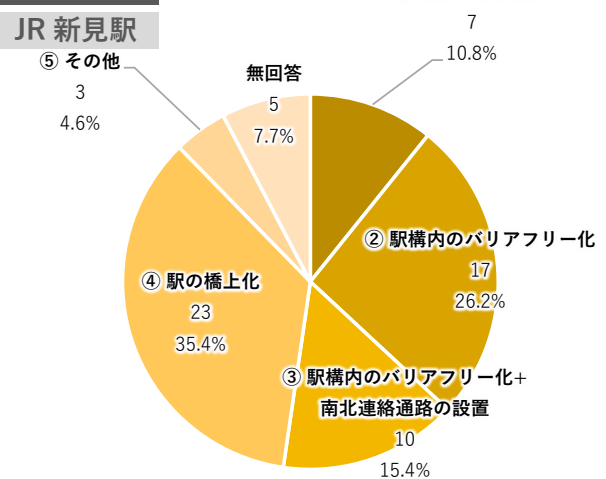


自由記入

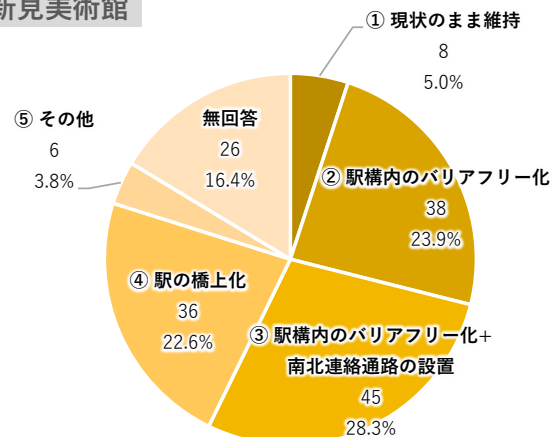
- ・電車の時間を増やす
- ・お手洗いや、通路の清潔感を保てたらよいですね。
- ・カフェ、勉強できるスペース
- ・駅周辺に都会の人も来たくするような施設の新設。

・②③④については、属性により多少の差があるものの、いずれのアンケートでも「②駅構内のバリアフリー化」「③バリアフリー化+南北連絡通路」「④駅の橋上化」を合計すると7割を超えており、現状からの改善を求めた結果となっている。

施設利用者



新見美術館

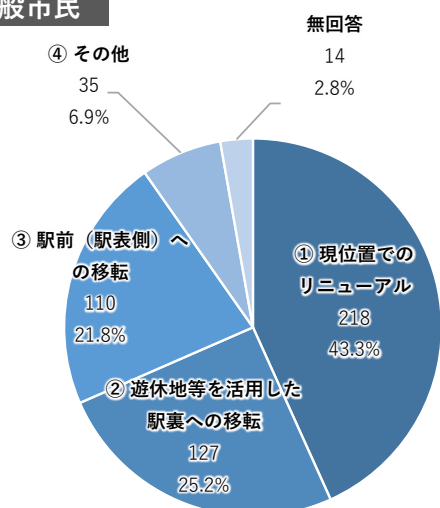


自由記入

- ・ピアノをこの空きスペースに置いてほしい
- ・コンビニやカフェの併設
- ・美術館と一体化した駅舎整備
- ・古い駅舎をあえてアンティークアートっぽくする。

・問 10：新見美術館の将来的なあり方について、あなたが望ましいと思うものをお選びください。

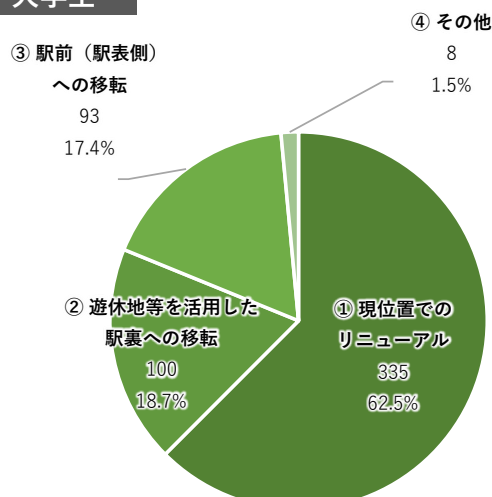
一般市民



自由記入

- ・現位置のままアクセスの変革、バリアフリー化
- ・集客を考えると十分な駐車場を確保できる土地を考えて移転の方が良い。道が急で冬は行きたくない。
- ・増築して、広い展示スペースになったらよいと思う。等

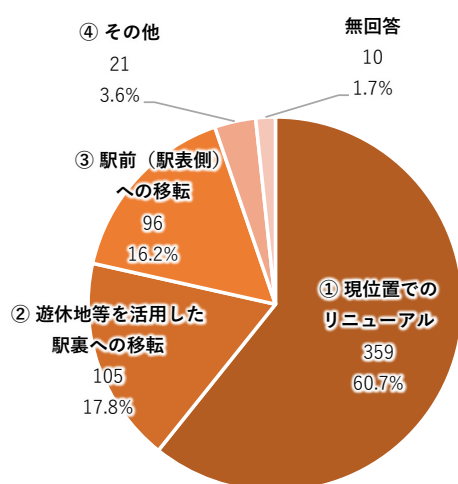
大学生



自由記入

- ・アクセス路を増やす
- ・エレベーター
- ・スタバを近くに作る
- ・行ったことがないから知らない 等

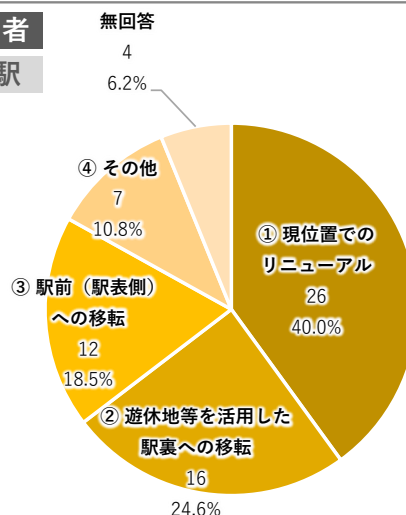
高校生



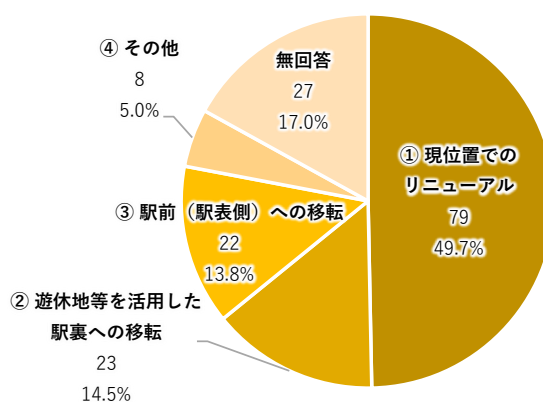
自由記入

- ・駅から美術館へ遠回りしなくていい道を新たにつくる。
- ・美術館を特に推していきたいのであれば、もっと宣伝等を活発に行う。
- ・どうでもいい、興味ない 等

施設利用者
JR 新見駅



新見美術館



自由記入

- ・今のまま、駅裏との連結。
- ・駅からのアクセス(バス)などあるとよいと思う。
- ・展示スペースが確保できるなら(今より広い場所)移転もありかと思います。 等

- ・一般市民アンケートについては、「①現位置でのリニューアル」より「②新見駅裏への移転」と「③駅前への移転」の移転意見がわずかに上回る結果となっている。
- ・大学生、高校生アンケートについては、「①現位置でのリニューアル」が最多となり、6割を超えている。
- ・JR 新見駅利用者アンケートについては、一般市民アンケートと同様に①より②③を合計した移転意見がわずかに上回る結果となっている。一方、新見美術館利用者アンケートでは、①が最多で約半数を占める結果となっている。